

ケアラーに関するアンケート調査 結果報告書



令和8年3月
京都市

目次

第1章 調査概要.....	1
1 調査目的.....	1
2 調査の種類及び期間.....	1
3 調査内容及び実施方法等.....	1
4 調査結果の見方.....	1
第2章 意識調査の結果.....	2
1 基本事項.....	2
2 意識調査.....	6
第3章 実態調査の結果.....	11
1 基本事項.....	11
2 ケアとのかかわり.....	15
3 ケアの状況.....	16
4 サービス等の利用について.....	30
5 就労・就学への影響について.....	32
6 ケアラー自身（身近にケアラーがいる人自身）について.....	36
7 その他ケアラー支援に係る意見や要望.....	42
第4章 関係機関等調査の結果.....	44
1 基本事項.....	44
2 意識調査.....	46
3 ケアラー支援の状況.....	47
4 今後の取組.....	56

第1章 調査概要

1 調査目的

京都市におけるケアラーをとりまく状況、ケアラー本人の状況や悩みごと、当事者団体を含めた関係機関・関係団体における取組の状況等について、多様な主体に御意見を伺い、ケアラー支援のための計画策定や施策検討の参考とすることを目的として実施しました。

2 調査の種類及び期間

(1) 調査の種類

- ア 京都市内在住・在勤・在学の方を対象としたアンケート（以下「意識調査」という。）
- イ ケアラーの方を対象としたアンケート（以下「実態調査」という。）
- ウ 関係機関・関係団体向けアンケート（以下「関係機関等調査」という。）

(2) 調査期間

令和7年9月1日（月）～同年9月30日（火）

3 調査内容及び実施方法等

調査の種類	調査対象及び調査内容	実施方法（※）	回答数
意識調査 (P2～P10)	京都市内在住又は在勤・在学の方を対象に、ケアラーに関する認識等を尋ねたもの。	報道発表等により広く市民等に回答を呼び掛け、専用フォームからオンラインで回答いただいた。	2,137件
実態調査 (P11～P43)	ケアラー、過去にケアラーであった方や身近にケアラーがいる方を対象に、本人の状況や悩みごと等を尋ねたもの。	「京都市ケアラー支援推進協議会」構成団体を通じてケアラーの方に回答を依頼し、専用フォームからのオンライン又は紙媒体で回答いただいた。	161件
関係機関等 調査 (P44～P60)	関係機関・関係団体（当事者団体を含む）を対象に、ケアラーに関する認識やケアラー支援の取組等を尋ねたもの。	ケアやケアラーに関わる関係機関・関係団体に回答を依頼し、専用フォームからオンラインで回答いただいた。	268件

※ いずれも回答は任意。

4 調査結果の見方

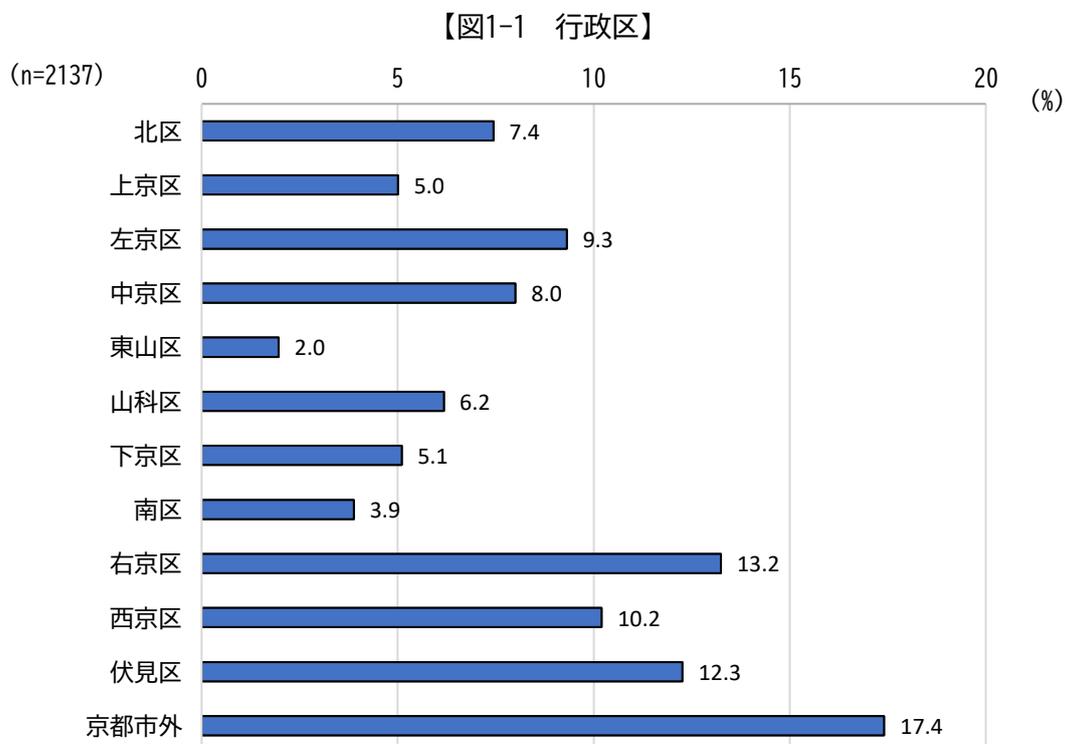
- ① 図中の「n」は、設問に対する回答者数を示します。
- ② 回答比率（％）は、回答者数（n）を100％として算出し、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しないことがあります。
- ③ 複数回答の設問については、回答比率（MA％）の計が100％を超過します。
- ④ 図表において、回答（選択肢）を簡略化して記載している場合があります。

第2章 意識調査の結果

1 基本事項

(1) 行政区

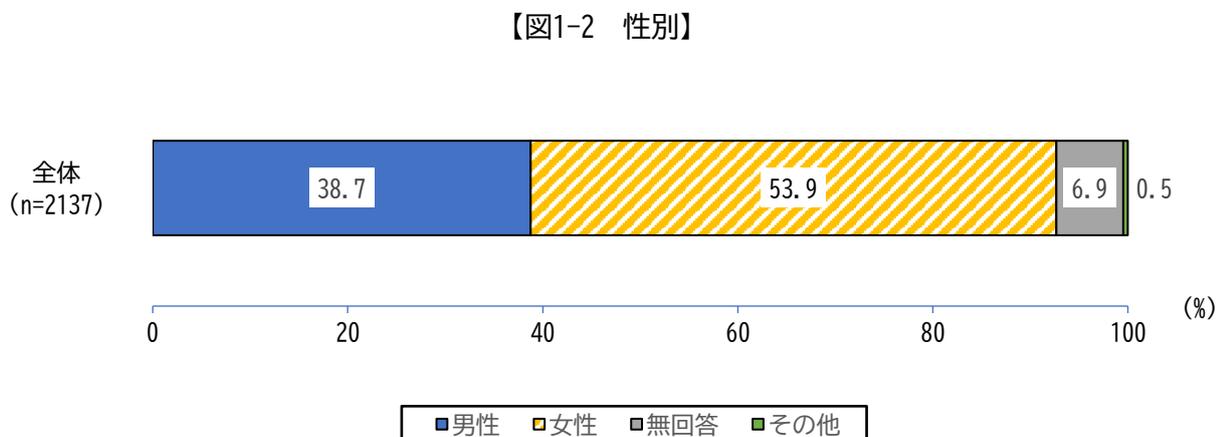
問1 あなたのお住まいの行政区を教えてください。



回答者の居住地は、「京都市外」が17.4%で最も多く、次いで「右京区」が13.2%、「伏見区」が12.3%となっています。(図1-1)

(2) 性別

問2 あなたの性別を教えてください。

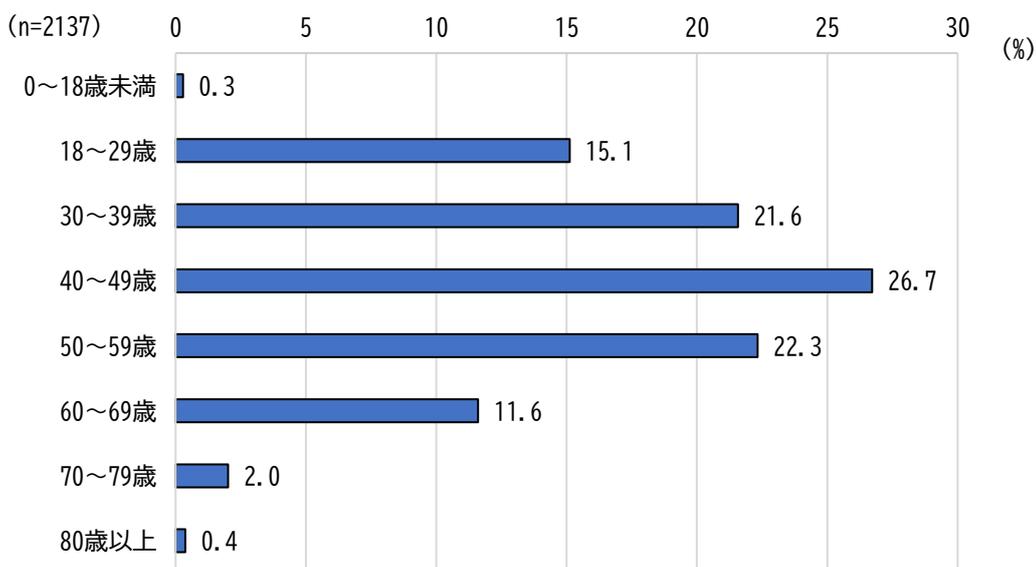


回答者の性別は、「男性」が38.7%、「女性」が53.9%となっています。(図1-2)

(3) 年齢

問3 あなたの年齢を教えてください。(令和7年4月1日時点)

【図1-3 年齢】

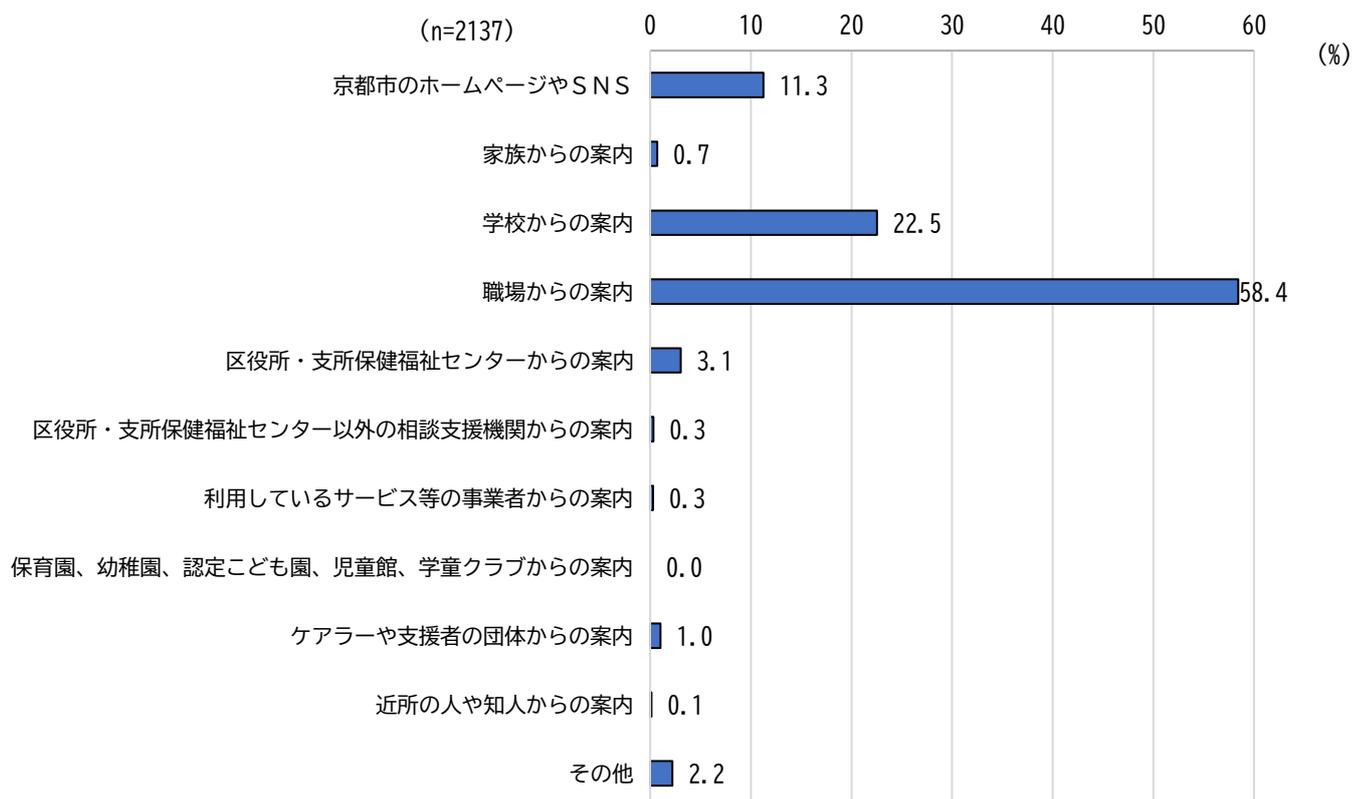


回答者の年齢は、「40～49歳」が26.7%で最も多く、次いで「50～59歳」が22.3%、「30～39歳」が21.6%となっています。(図1-3)

(4) アンケートを知ったきっかけ

問4 あなたは、このアンケートをどのように知りましたか。

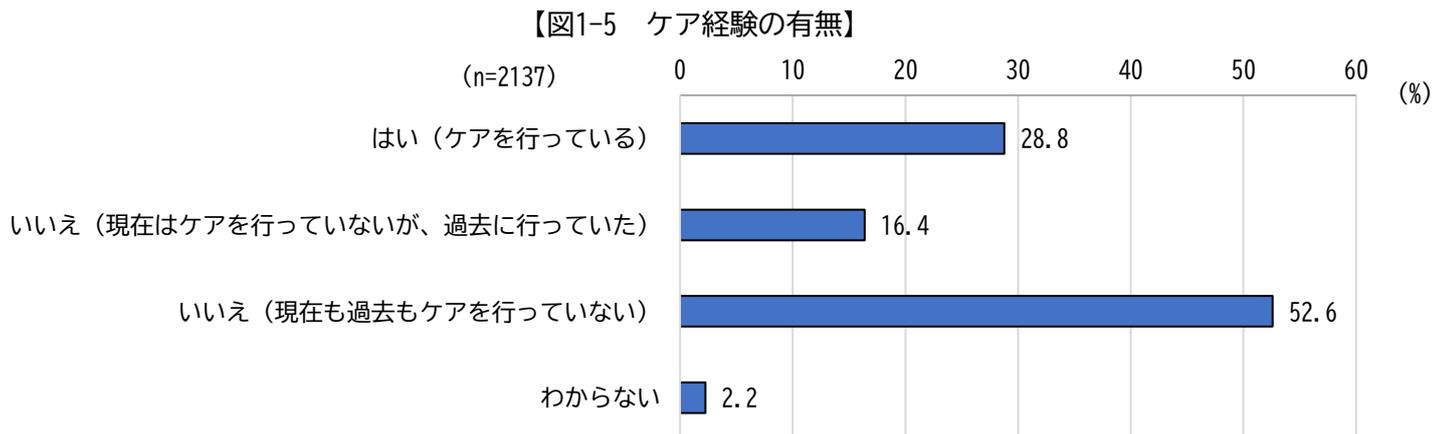
【図1-4 アンケートを知ったきっかけ】



回答者がアンケートを知ったきっかけは、「職場からの案内」が58.2%で最も多く、次いで「学校からの案内」が22.5%、「京都市のホームページやSNS」が11.2%となっています。(図1-4)

(5) ケア経験の有無

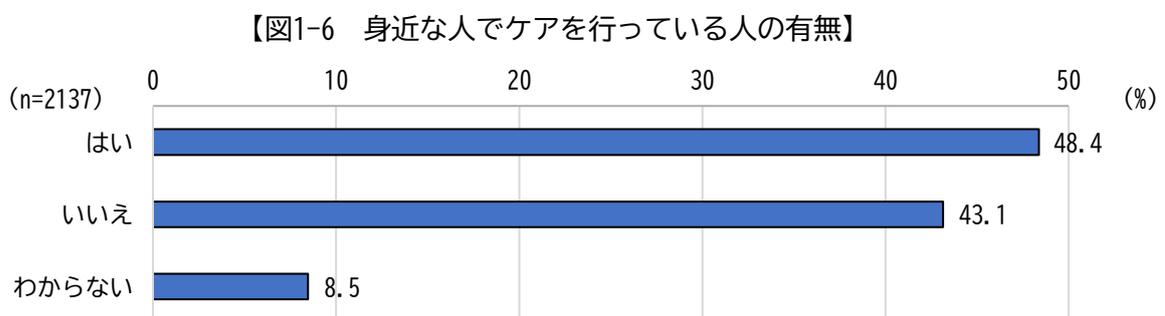
問5 あなたは、家族や友人など身近な人のケア（あなたと同居されていない方のケアも含みます。以下同じ。）を行っていますか。



回答者が身近な人のケアを行っているかは、「いいえ（現在も過去もケアを行っていない）」が52.6%で最も多く、次いで「はい（ケアを行っている）」が28.8%、「いいえ（現在はケアを行っていないが、過去に行っていた）」が16.4%となっています。(図1-5)

(6) 身近な人でケアを行っている人の有無

問6 あなたの身近な方（家族や友人等）で、家族等のケアを行っている方（ケアラー）はいいますか。

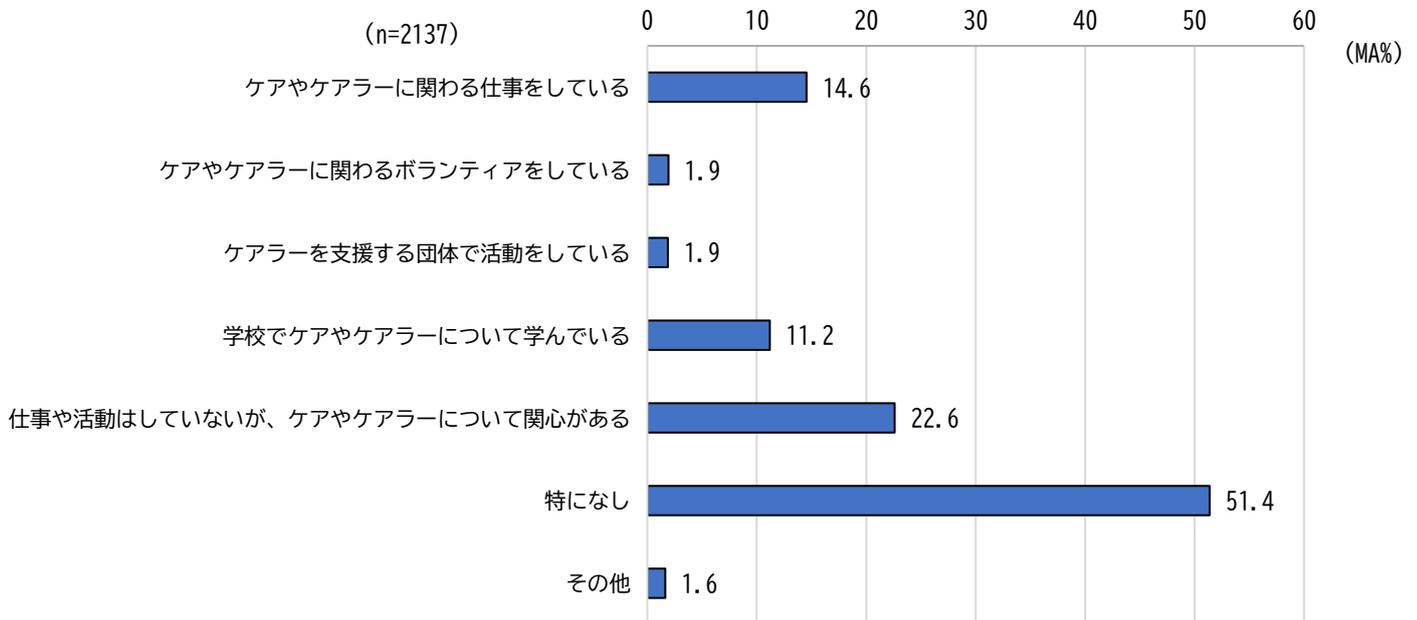


回答者の身近な人でケアを行っている人がいるかは、「はい」が48.4%、「いいえ」が43.1%、「わからない」が8.5%となっています。(図1-6)

(7) ケアやケアラーに関わる仕事や活動の有無

問7 あなたはケアやケアラーに関わる仕事や活動をしていますか（過去にしていたことを含みます。）。(いくつでも)

【図1-7 ケアやケアラーに関わる仕事や活動の有無】



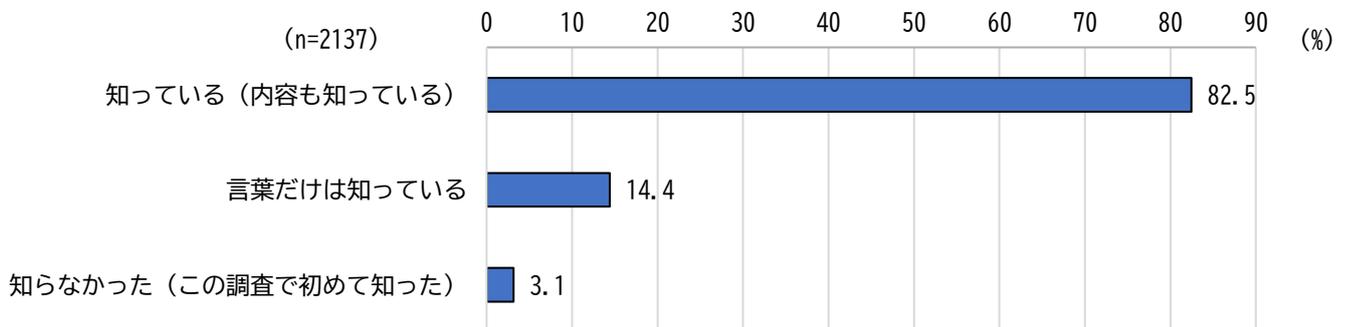
回答者のケアやケアラーに関わる仕事や活動の有無は、「特になし」が51.4%で最も多く、次いで「仕事や活動はしていないが、ケアやケアラーについて関心がある」が22.6%、「ケアやケアラーに関わる仕事をしている」が14.6%となっています。(図1-7)

2 意識調査

(1) 「ケアラー」の言葉の認知度

問8 あなたは「ケアラー」という言葉を知っていますか。

【図1-8 「ケアラー」の言葉の認知度】

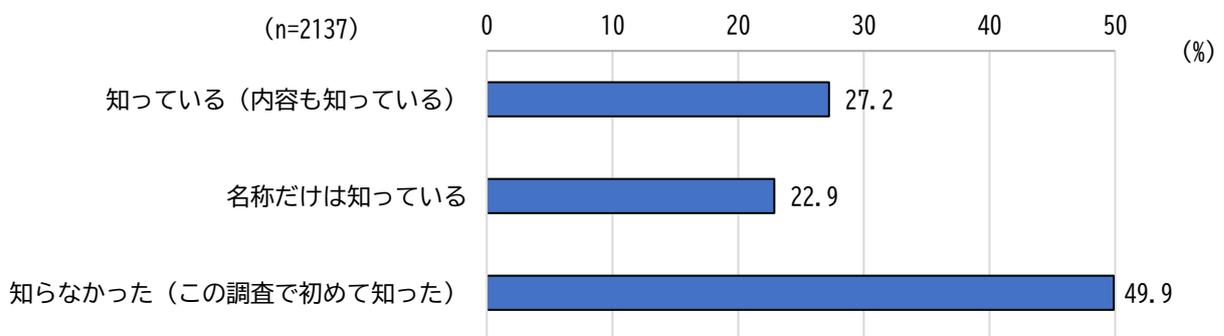


回答者の「ケアラー」の言葉の認知度は、「知っている（内容も知っている）」が82.5%、「言葉だけは知っている」が14.4%、「知らなかった（この調査で初めて知った）」が3.1%となっています。（図1-8）

(2) 条例の認知度

問9 あなたは「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」を知っていますか。

【図1-9 条例の認知度】

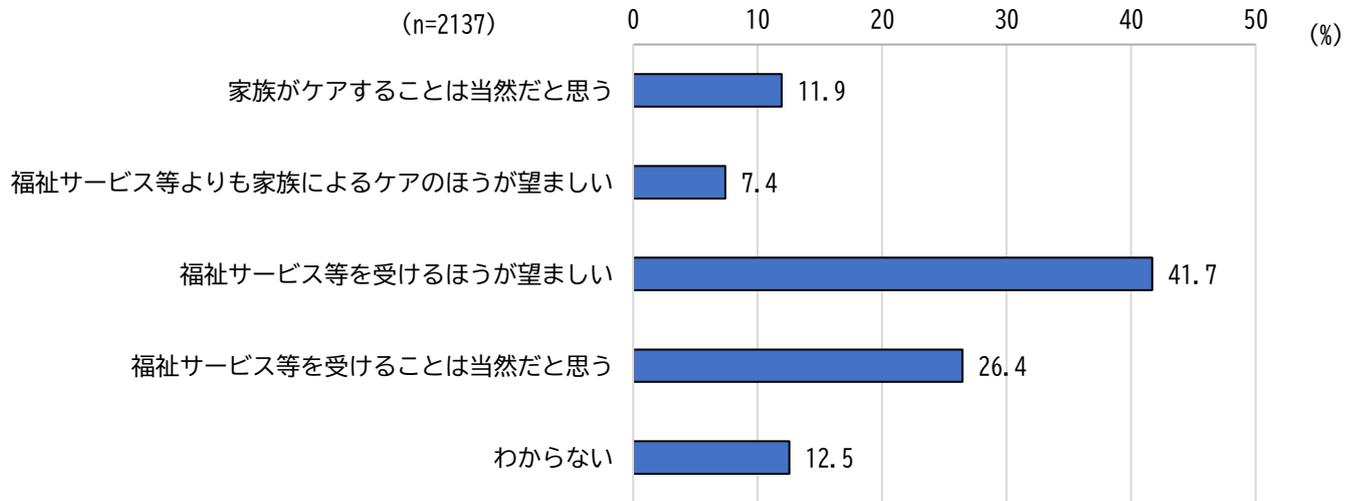


回答者の「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」の認知度は、「知っている（内容も知っている）」が27.2%、「名称だけは知っている」が22.9%、「知らなかった（この調査で初めて知った）」が49.9%となっています。（図1-9）

(3) 家族によるケアと福祉サービス等について

問 10 あなたは、家族によるケアと福祉サービス等について、どのように思いますか。

【図1-10 家族によるケアと福祉サービス等について】



回答者が家族によるケアと福祉サービス等についてどう思うかは、「福祉サービス等を受けるほうが望ましい」が41.7%で最も多く、次いで「福祉サービス等を受けることは当然だと思う」が26.4%、「わからない」が12.5%となっています。(図 1-10)

問 11 問 10 のように回答した理由について、教えてください。(自由記述)

主な御意見	意見数	割合
家族がケアすることは当然だと思う	55	100.0%
<ul style="list-style-type: none"> ・家族のことが大切 ・家族の方がケアを必要とする人のことを理解している ・まずは家族の支えが大事 ・家族のことは家族ですべき …など 	44	80.0%
・家族によるケアと福祉サービス等の両方があるとよい …など	3	5.5%
・ケアが必要な人が望んでいる …など	2	3.6%
・福祉サービス等だけでは難しい …など	2	3.6%
・ケアラーとケアが必要な人の意向を尊重できればよい …など	2	3.6%
・その他	2	3.6%
福祉サービス等よりも家族によるケアのほうが望ましい	110	100.0%
<ul style="list-style-type: none"> ・家族のことが大切 ・家族の方がケアを必要とする人のことを理解している ・まずは家族の支えが大事 ・家族のことは家族ですべき …など 	64	58.2%

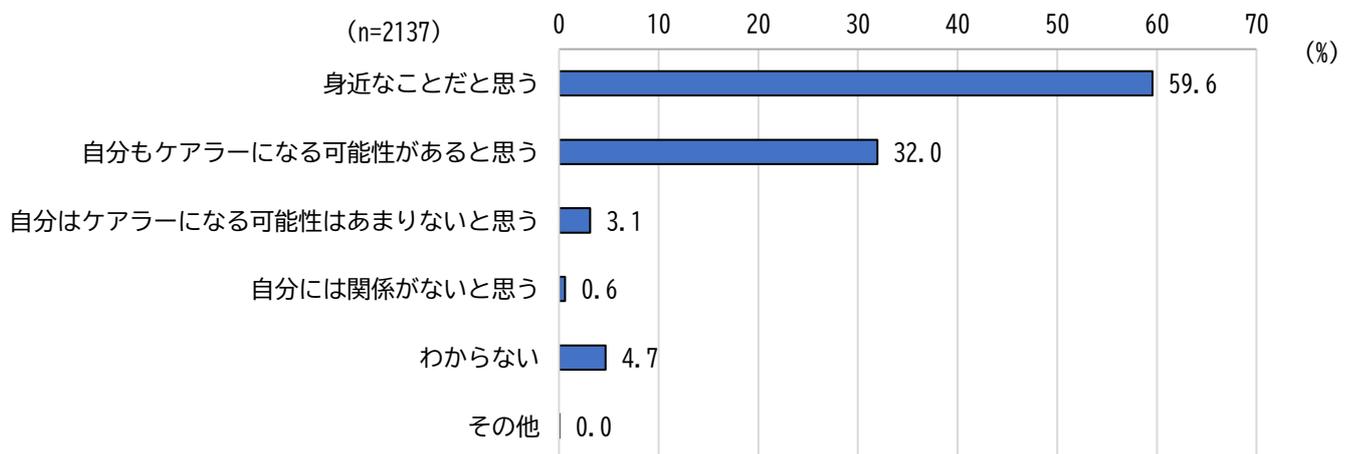
主な御意見		意見数	割合		
	・ケアが必要な人が望んでいる	24	21.8%		
	・ケアが必要な人にとっては家族のケアの方が望ましい …など				
	・ケアラーとケアが必要な人の意向を尊重できればよい …など				
	・家族によるケアと福祉サービス等の両方があるとよい …など				
	・福祉サービス等の利用が難しい、経済的な問題がある …など				
	・家族だけでケア担うのは難しい、限界がある …など				
	・その他			3	2.7%
福祉サービス等を受けるほうが望ましい		667	100.0%		
	・家族だけでケアを担うのは難しい、限界がある	360	54.0%		
	・家族の負担を軽減するため				
	・家族の負担になりたくないため …など				
	・家族によるケアと福祉サービス等の両方があるとよい …など			103	15.4%
	・ケアラーや他の家族の生活の安定が必要			64	9.6%
	・仕事とケアの両立が難しい …など				
	・福祉サービス等の利用により、よりよいケアを受けられる			57	8.5%
	・専門職によるケアの方が、ケアが必要な人にとってもよい …など				
	・家族が支援を受けることを躊躇しないようにすることが必要			39	5.8%
	・ケアは社会全体で支えるもの、社会の課題である				
	・福祉サービス等の利用は権利である …など				
	・ケアラーとケアが必要な人の意向を尊重できればよい …など			23	3.4%
・ケアラーが家庭内でケアに従事することにより社会的な損失が生じる …など	6	0.9%			
・その他	15	2.2%			
福祉サービス等を受けることは当然だと思う		407	100.0%		
	・家族だけでケアを担うのは難しい、限界がある	186	45.7%		
	・家族の負担を軽減する必要がある				
	・家族の負担になりたくない …など				
	・家族が支援を受けることを躊躇しないようにすることが必要			110	27%
	・ケアは社会全体で支えるもの、社会の課題である				
	・福祉サービス等の利用は権利である …など				
	・家族によるケアと福祉サービス等の両方があるとよい …など			46	11.3%
	・ケアラーや他の家族の生活の安定が必要			35	8.6%
	・仕事とケアの両立が難しい …など				
	・福祉サービス等の利用により、よりよいケアを受けられる			17	4.2%
	・専門職によるケアの方が、ケアが必要な人にとってもよい …など				
・ケアラーとケアが必要な人の意向を尊重できればよい …など	8	2.0%			
・その他	5	1.2%			
わからない		188	100.0%		
	・一概にいけない、ケースバイケースである …など	110	58.5%		

主な御意見	意見数	割合
・家族によるケアと福祉サービス等の両方があるとよい …など	26	13.8%
・ケアをした経験がなく、わからない …など	12	6.4%
・まずは家族の支えが大事だから ・家族のことは家族ですべき …など	12	6.4%
・ケアラーとケアが必要な人の意向を尊重できればよい …など	11	5.9%
・家族だけでケアを担うのは難しい、限界がある …など	4	2.1%
・ケアが必要な人にとっては家族のケアの方が望ましいから …など	3	1.6%
・その他	10	5.3%

(4) ケアラーは身近なことだと思うか

問 12 あなた自身について、ケアラーは身近なことだと思いますか。

【図1-11 ケアラーは身近なことだと思うか】



回答者がケアラーを身近なことだと思うかは、「身近なことだと思う」が59.6%と最も多く、次いで「自分もケアラーになる可能性があると思う」が32.0%、「わからない」が4.7%となっています。(図1-11)

(5) ケアラー支援について

問 13 ケアラーへの支援について、御意見や御要望があれば、記載してください。(自由記述)

主な御意見の分類	意見数
<ul style="list-style-type: none"> ・取組への賛同、今後への期待に関すること ・社会全体でケアラーを支えること、ケアラーが支援を受けることへの抵抗をなくすこと、自分ごととして考えることに関すること 	72
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス等の充実や拡充、人材確保や人材育成、事業者への支援や職員への処遇改善に関すること ・福祉サービス等の利用に係る手続の簡略化や効率化に関すること 	71
<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口や福祉サービス等の利用に係るわかりやすい情報発信に関すること ・様々な媒体を活用した情報発信に関すること 	57
<ul style="list-style-type: none"> ・多様なケアラーの状況に応じた支援の充実に関すること ・ケアラー支援に関する御要望、御提案 	52
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアラーに寄り添う相談窓口、気軽に相談できる相談窓口、わかりやすい相談窓口の設置に関すること 	37
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアラーやケアラー支援に関する広報啓発に関すること ・ケアラーへの気づきに関すること 	27
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーへの支援の充実に関すること ・学校での教育に関すること 	25
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアラー支援についての行政の責任、期待、不満に関すること 	23
<ul style="list-style-type: none"> ・多様なケアラーの現状、自身や身近な人の実体験に関すること 	22
<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な支援の充実や費用負担の軽減に関すること 	22
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアと仕事や学業の両立支援の充実に関すること 	19
<ul style="list-style-type: none"> ・当事者の声を聴くこと、実態把握に関すること 	12
<ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくりの支援、地域づくりに関すること 	7
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアラーがケアから離れたたり、休息したりするための支援に関すること 	7
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの意義や社会的価値に関すること 	3
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアラー支援に関する疑問、懸念など 	3
<ul style="list-style-type: none"> ・その他 	6
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	19
計	484

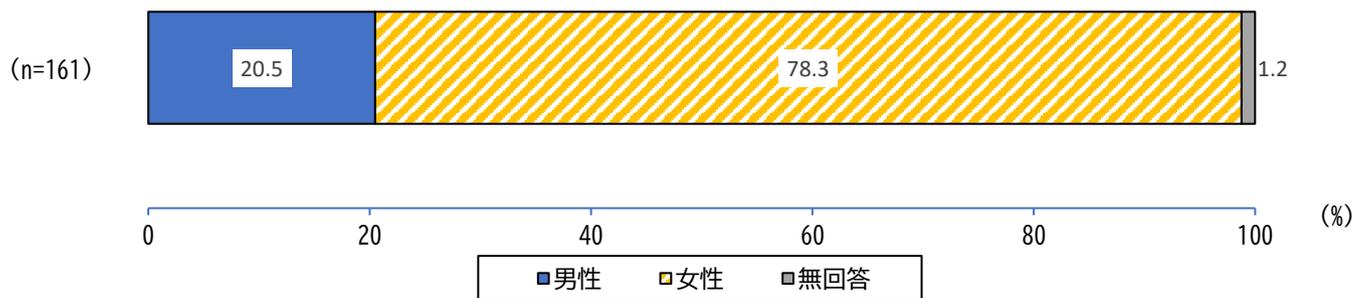
第3章 実態調査の結果

1 基本事項

(1) 性別

問1 あなたの性別を教えてください。

【図2-1 性別】

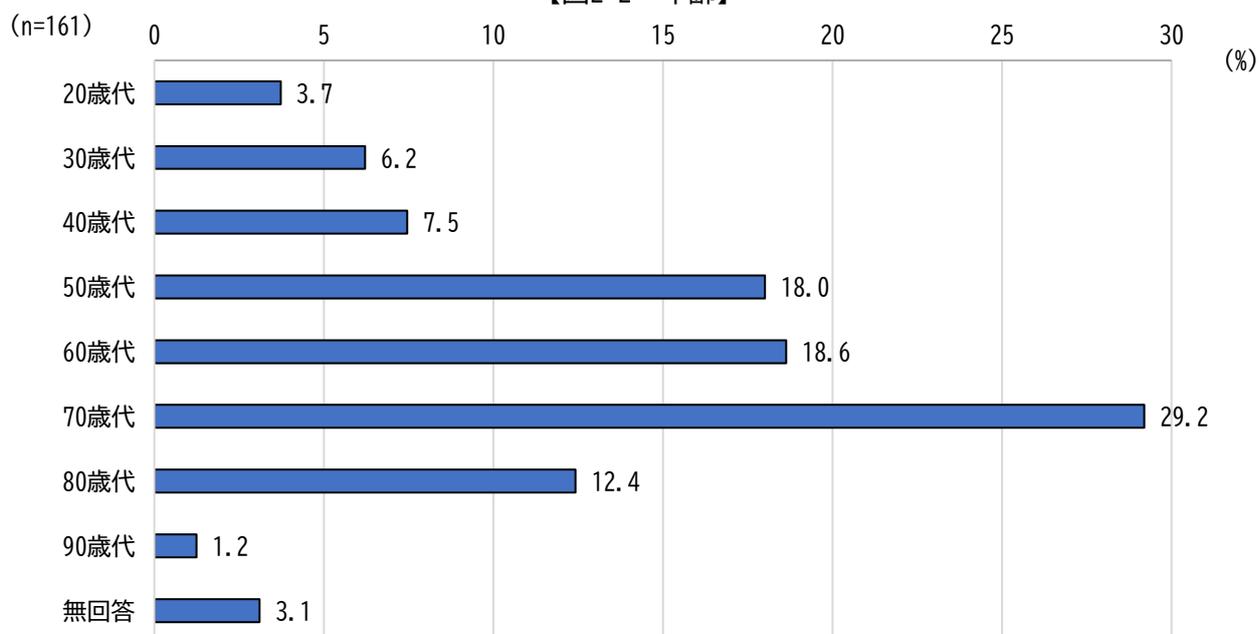


回答者の性別は、「男性」が20.5%、「女性」が78.3%となっています。(図2-1)

(2) 年齢

問2 あなたの年齢を教えてください。(令和7年4月1日時点)

【図2-2 年齢】

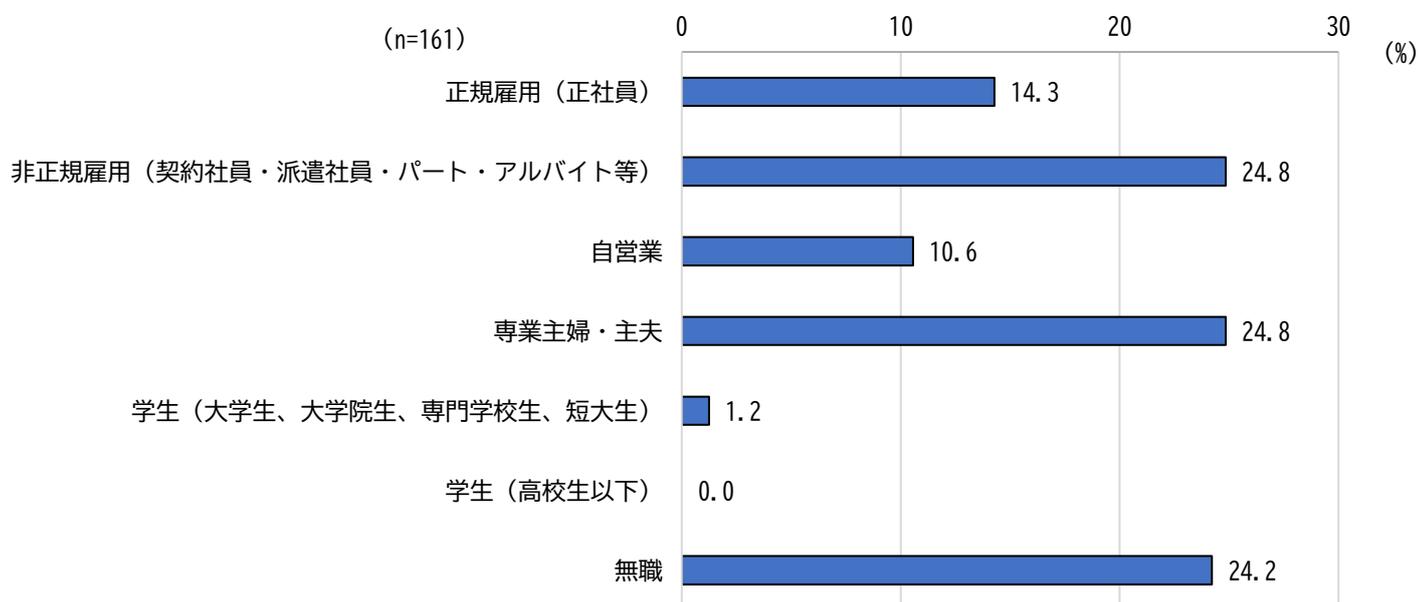


回答者の年齢は、「70歳代」が29.2%で最も多く、次いで「60歳代」が18.6%、「50歳代」が18.0%となっています。(図2-2)

(3) 職業等

問3 あなたの職業等について教えてください。

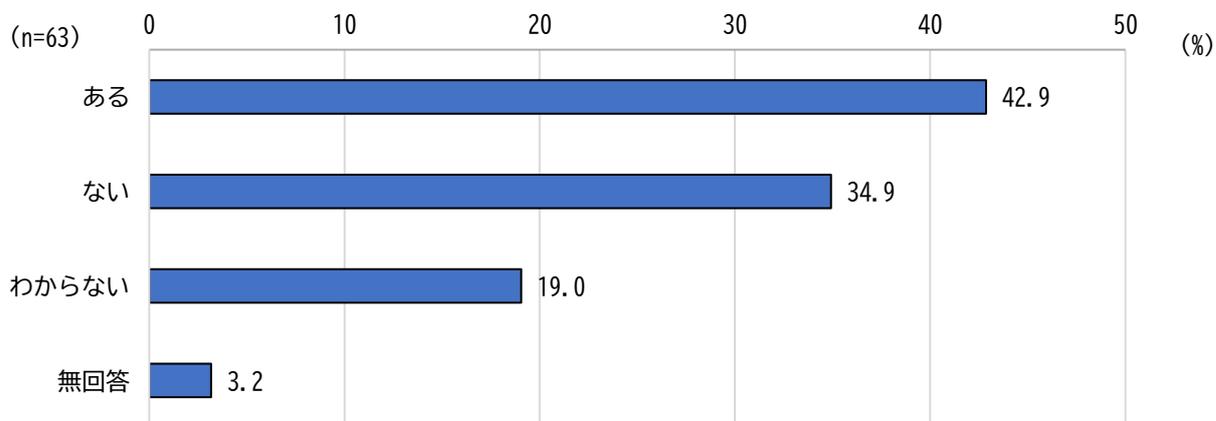
【図2-3-1 職業等】



回答者の職業等は、「非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）」及び「専業主婦・主夫」が24.8%と最も多く、次いで「無職」が24.2%となっています。（図2-3-1）

問3で「正規雇用（正社員）」「非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）」を選択した方にお聞きします。介護休業・育児休業制度はありますか。

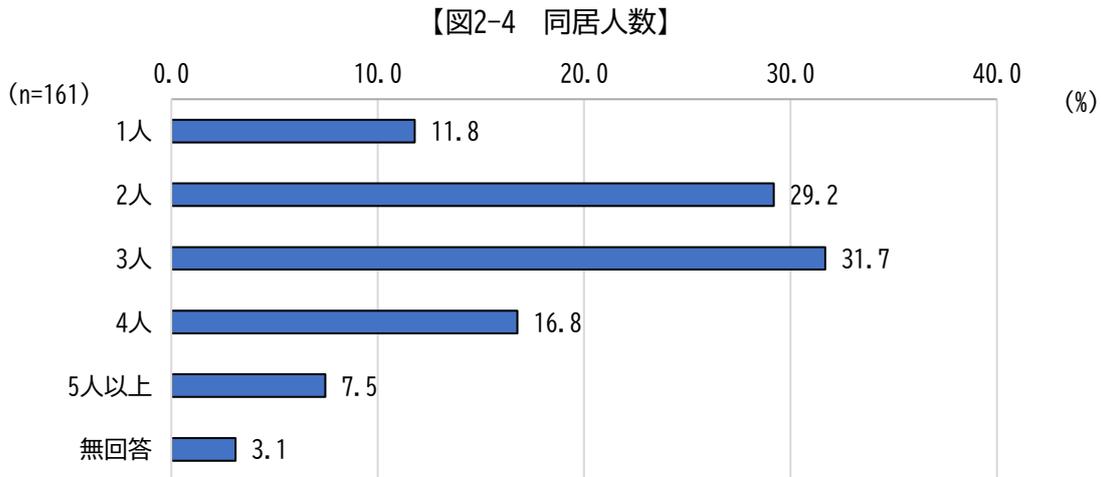
【図2-3-2 介護休業・育児休業制度の有無】



回答者の就業先における介護休業・育児休業制度の有無は、「ある」が42.9%、「ない」が34.9%、「わからない」が19.0%となっています。（図2-3-2）

(4) 同居人数

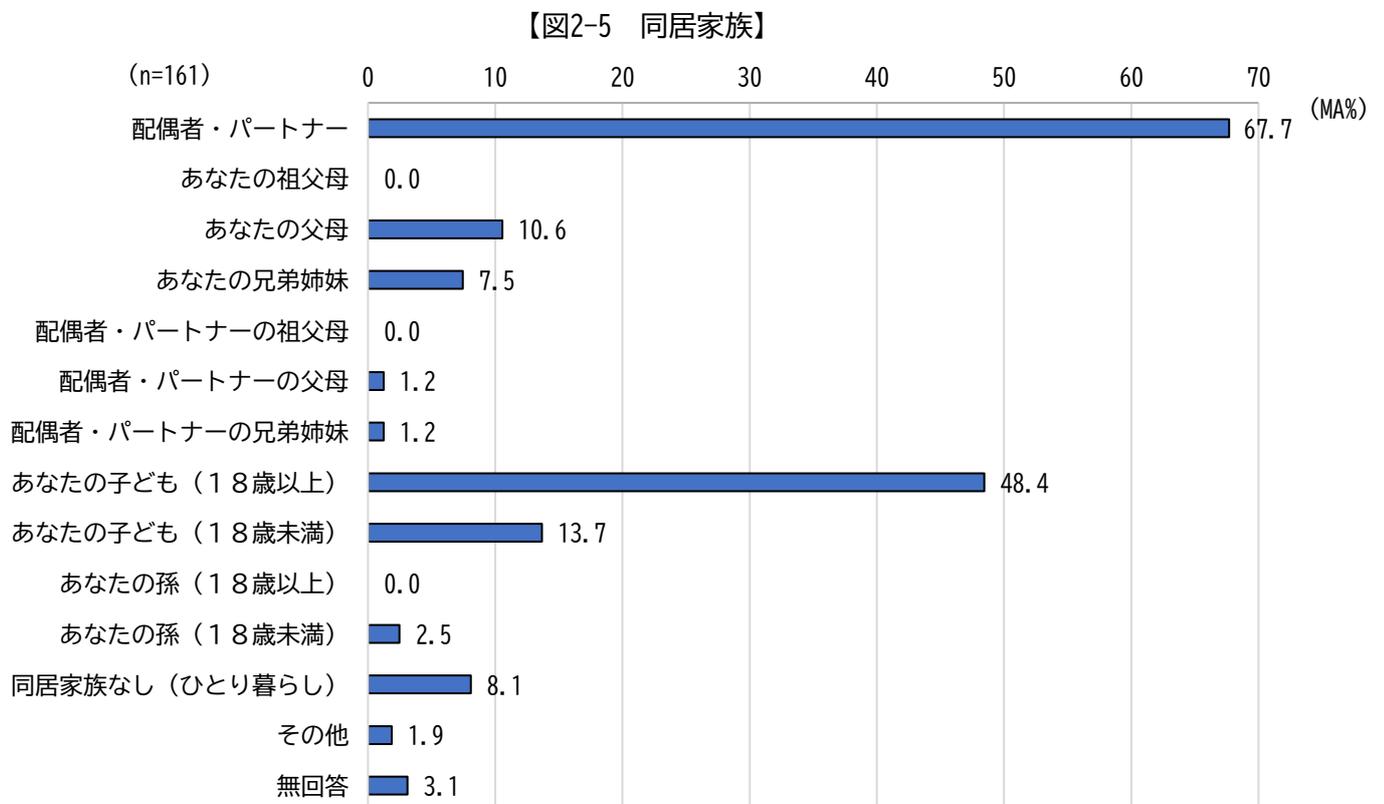
問4 あなたの家では、あなたを含めて同居している方は何人ですか。



回答者の同居人数は、「3人」が31.7%と最も多く、次いで「2人」が29.2%、「4人」が16.8%となっています。(図2-4)

(5) 同居家族

問5 あなたが同居されている家族を全て選択してください。

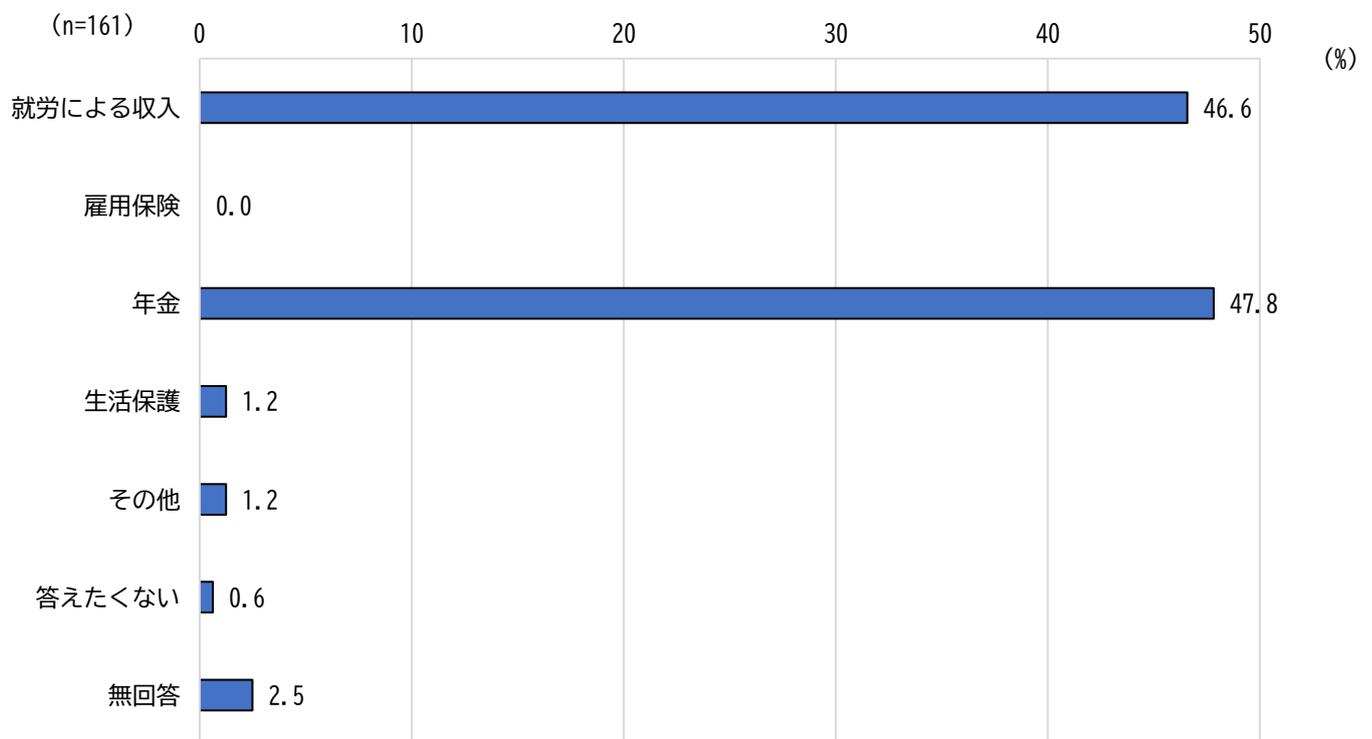


回答者の同居家族は、「配偶者・パートナー」が67.7%と最も多く、次いで「あなたの子ども (18歳以上)」が48.4%、「あなたの子ども (18歳未満)」が13.7%となっています。(図2-5)

(6) 世帯の主な収入

問6 あなたの世帯の主な収入を教えてください。

【図2-6 世帯の主な収入】



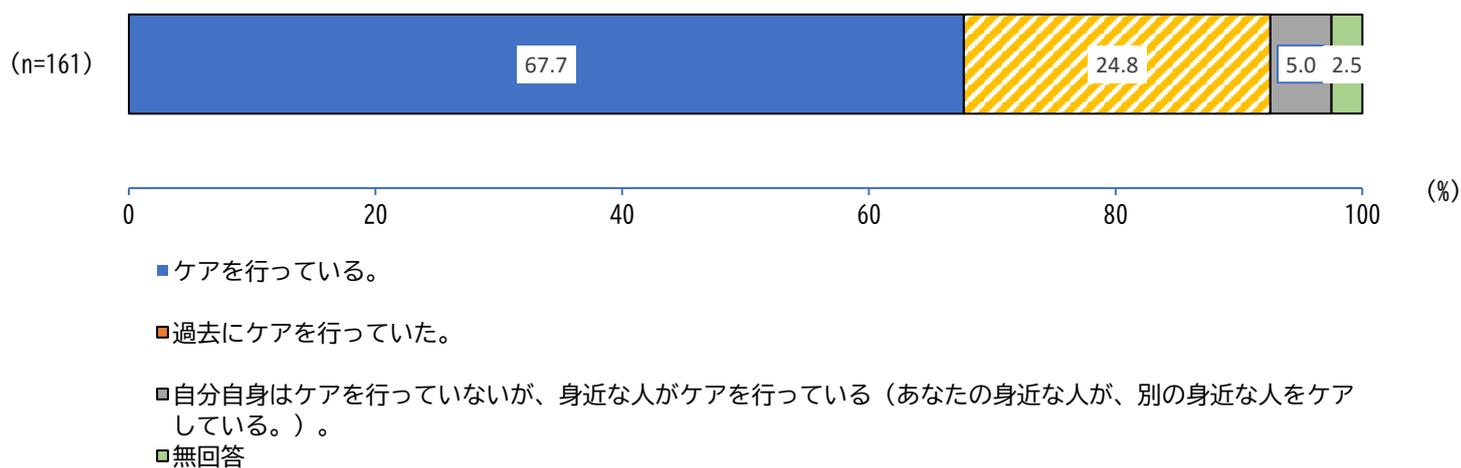
回答者の世帯の主な収入は、「年金」が47.8%で最も多く、次いで「就労による収入」が46.6%、「生活保護」が1.2%となっています。(図 2-6)

2 ケアとのかかわり

(1) ケア経験の有無

問7 あなたは、家族や友人など身近な人のケアを行っていますか（あなたと同居されていない方のケアも含みます。以下同じ。）。（いずれか一つを選択してください。）

【図2-7 ケア経験の有無】

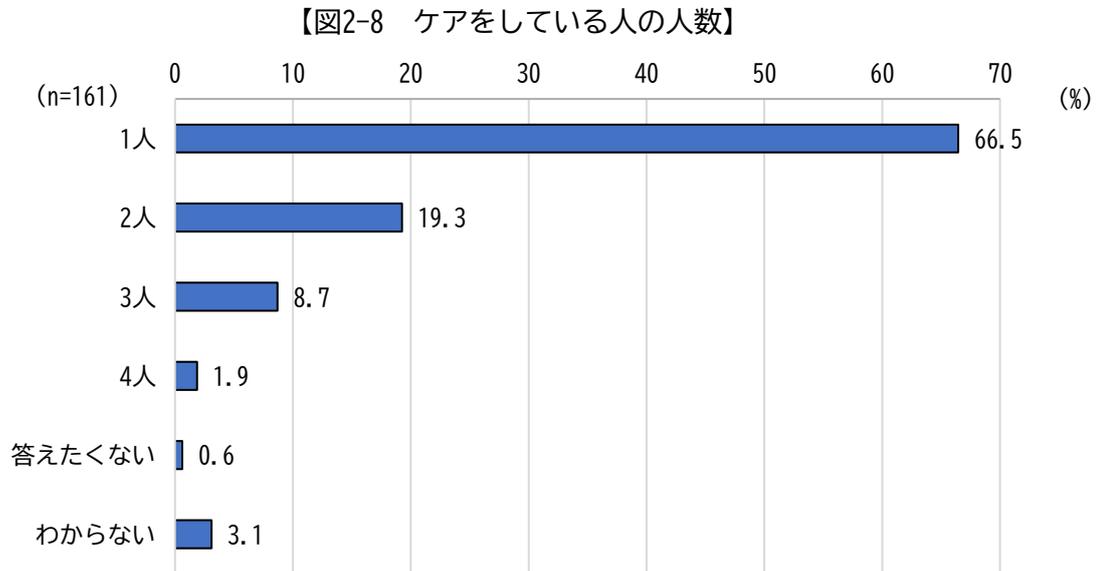


回答者のケア経験の有無は、「ケアを行っている」が67.7%、「過去にケアを行っていた」が24.8%、「自分自身はケアを行っていないが、身近な人がケアを行っている（あなたの身近な人が、別の身近な人をケアしている。）」が5.0%となっています。（図 2-7）

3 ケアの状況

(1) ケアをしている人の人数

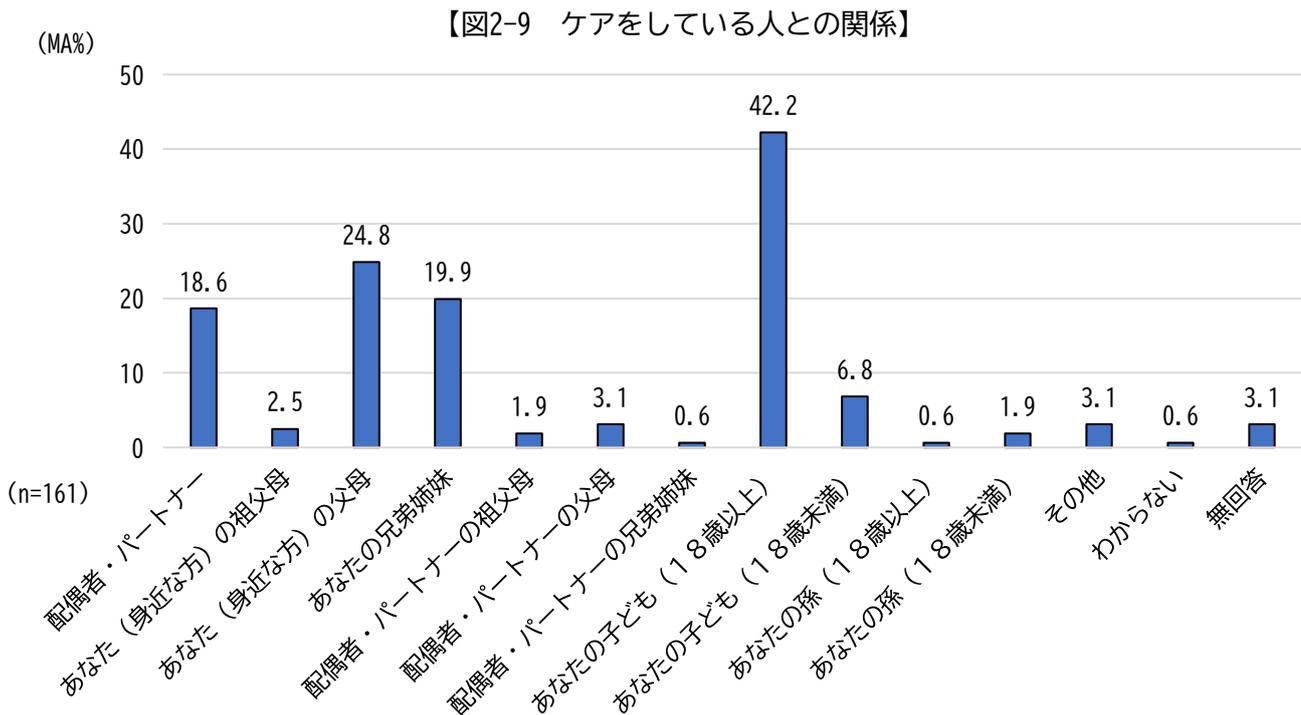
問8 あなた（身近な方）がケアをしている方の人数を教えてください。



回答者がケアをしている人の人数は、「1人」が66.5%で最も多く、次いで「2人」が19.3%、「3人」が8.7%となっています。（図2-8）

(2) ケアをしている人との関係

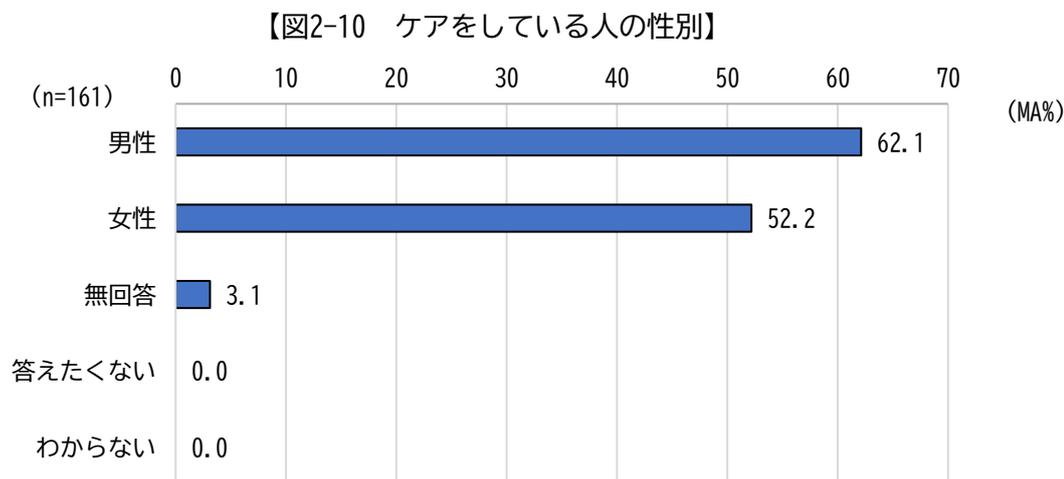
問9 あなた（身近な方）がケアをしている方は、あなた（身近な方）から見てどのような関係ですか。（ケアをしている方が複数おられる場合は全て選択してください。）



回答者とケアをしている人との関係は、「あなたの子ども（18歳以上）」が42.2%で最も多く、次いで「あなた（身近な方）の父母」が24.8%、「あなたの兄弟姉妹」が19.9%となっています。（図2-9）

(3) ケアをしている人の性別

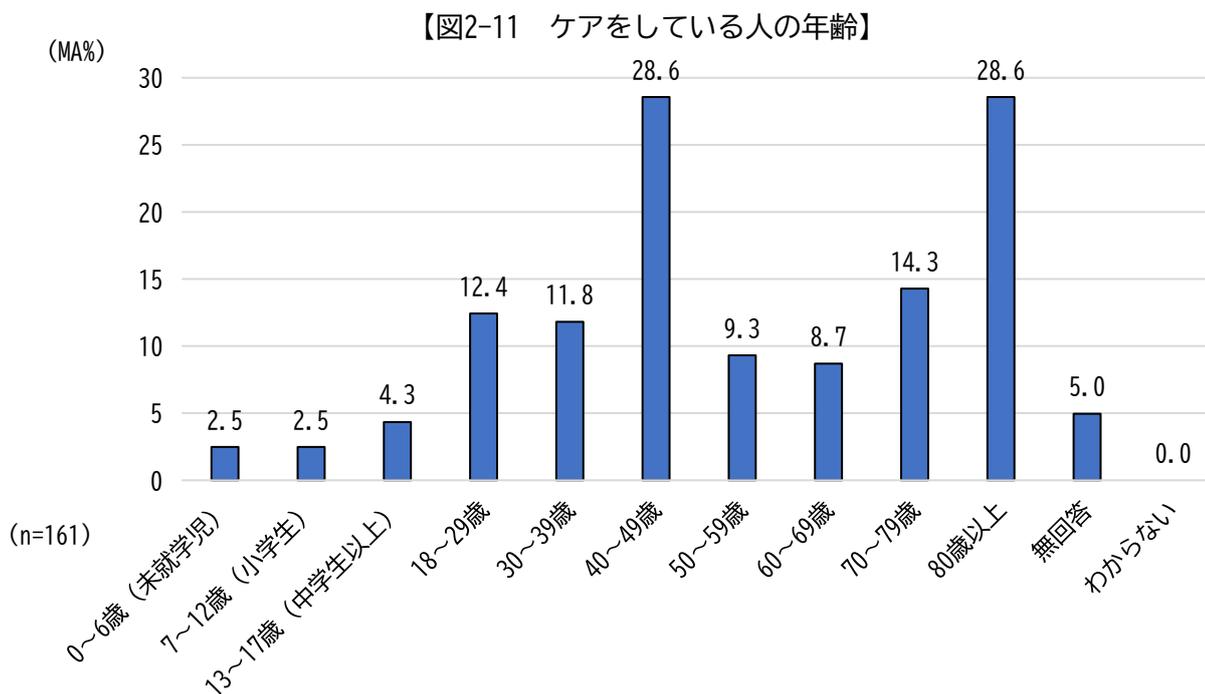
問10 あなた（身近な方）がケアをしている方の性別を教えてください。（ケアをしている方が複数おられる場合は全て選択してください。）



回答者がケアをしている方の性別は、「男性」が62.1%、「女性」が52.2%となっています。（図2-10）

(4) ケアをしている人の年齢

問11 あなた（身近な方）がケアをしている方の年齢を教えてください。（令和7年4月1日時点。ケアをしている方が複数おられる場合は全て選択してください。）※はっきりとわからない場合は、概ねで御回答ください。

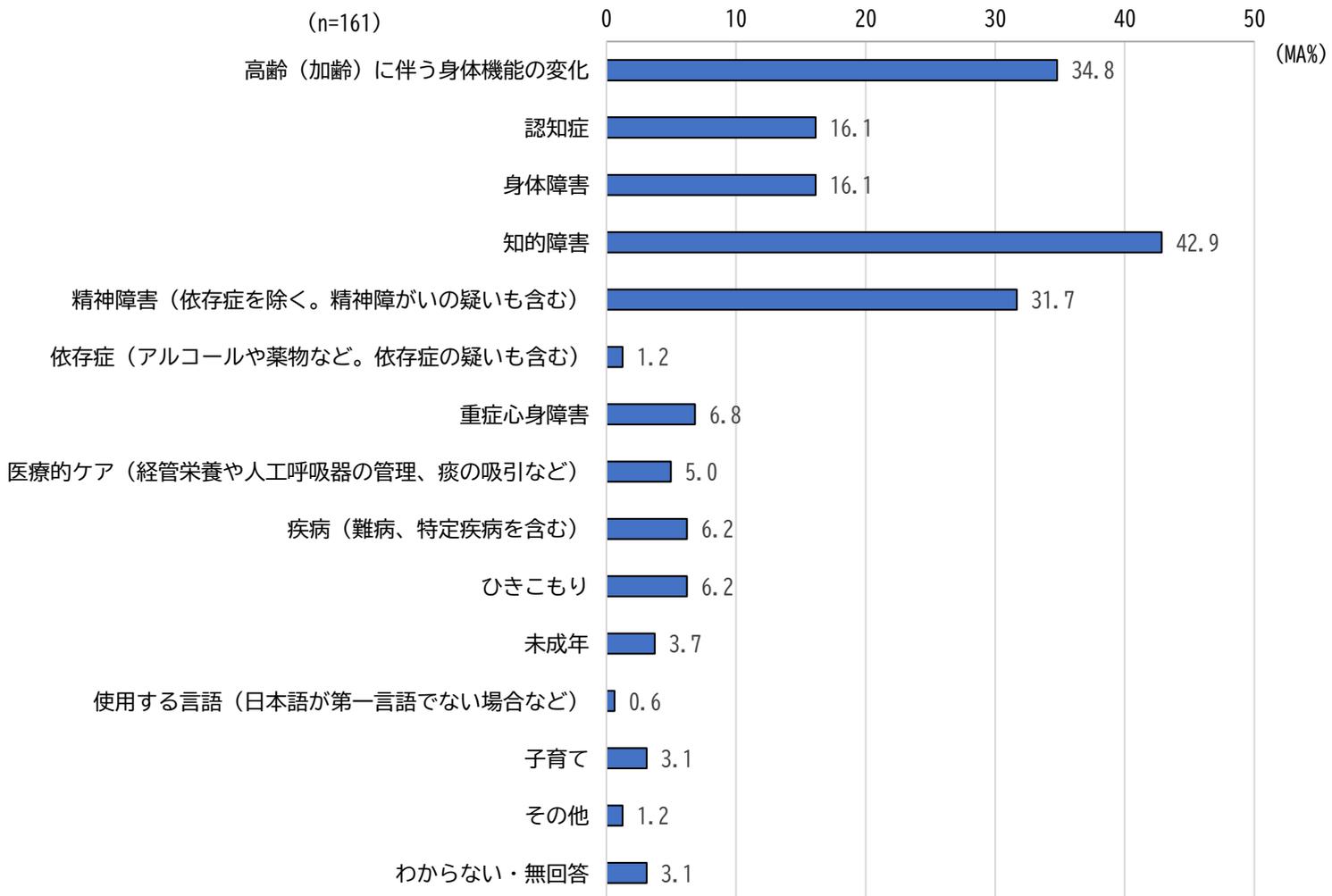


回答者がケアをしている人の年齢は、「40～49歳」及び「80歳以上」が28.6%と最も多く、次いで「70～79歳」が14.3%となっています。(図2-11)

(5) ケアが必要な理由

問12 あなた（身近な方）がケアをしている方について、ケアが必要な理由を教えてください。（いくつでも）

【図2-12 ケアが必要な理由】

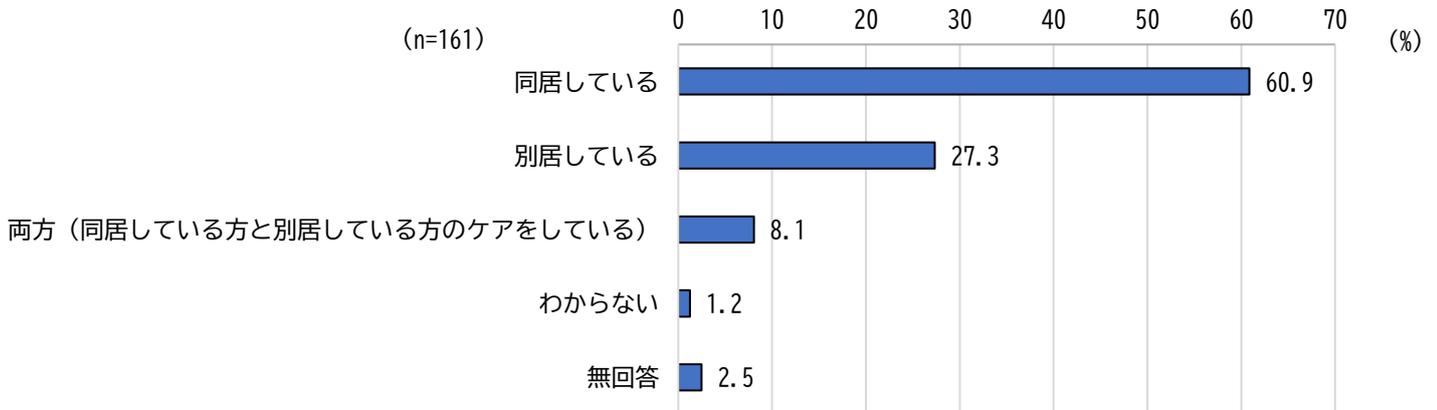


回答者がケアをしている人のケアが必要な理由は、「知的障害」が42.9%で最も多く、次いで「高齢（加齢）に伴う身体機能の変化」が34.8%、「精神障害（依存症を除く。精神障がいの疑いも含む）」が31.7%となっています。(図2-12)

(6) ケアをしている人との同居の有無

問13 あなた（身近な方）は、あなた（身近な方）がケアをしている方と同居されていますか。

【図2-13 ケアをしている人との同居の有無】

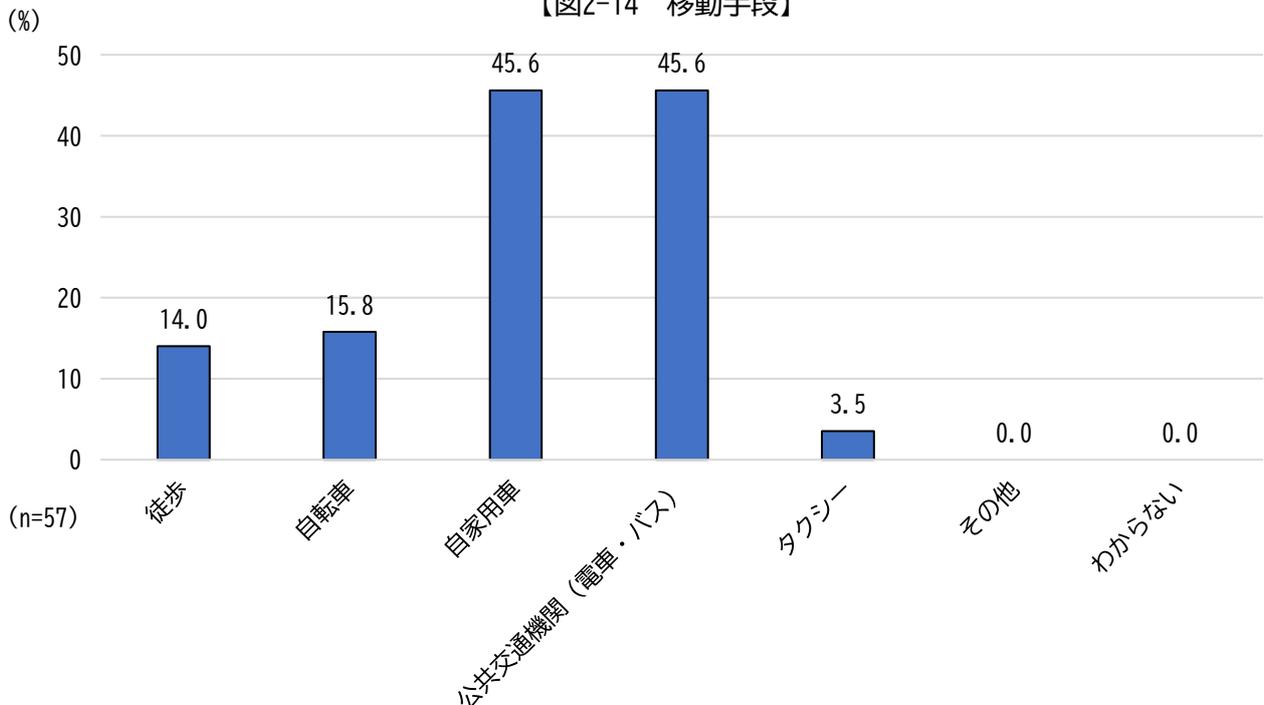


回答者とケアをしている人との同居の有無は、「同居している」が60.9%、「別居している」が27.3%、「両方（同居している方と別居している方のケアをしている）」が8.1%となっています。（図2-13）

(7) 移動手段

問14 問13で「別居している」又は「両方」を選択された方にお尋ねします。あなた（身近な方）がケアをしている方の家までの移動手段を教えてください。

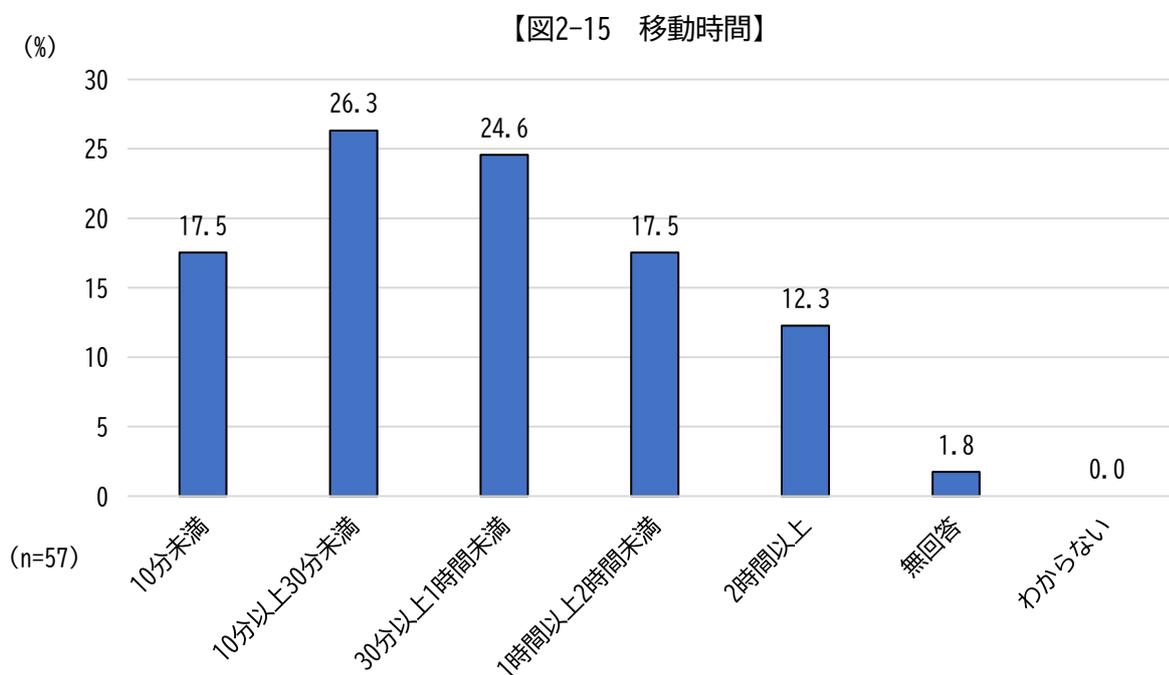
【図2-14 移動手段】



回答者のケアをしている人の家までの移動手段は、「自家用車」及び「公共交通機関（電車・バス）」が45.6%で最も多く、次いで「自転車」が15.8%となっています。（図2-14）

(8) 移動時間

問 15 問 13 で「別居している」又は「両方」を選択された方にお尋ねします。あなた（身近な方）がケアをしている方の家までの移動時間を教えてください。※はっきりとわからない場合は、概ねで御回答ください。



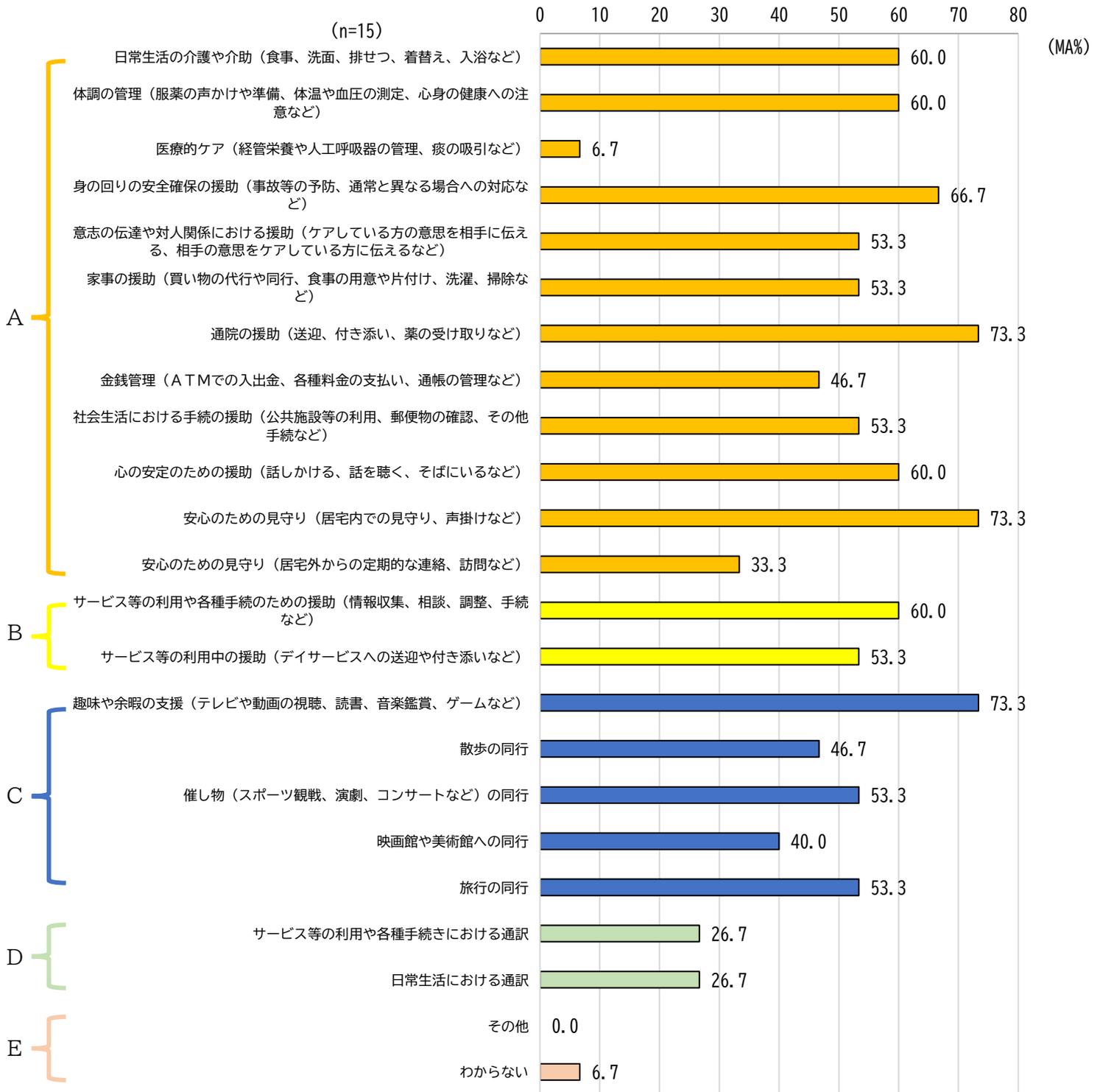
回答者の移動時間は、「10分以上30分未満」が26.3%で最も多く、次いで「30分以上1時間未満」が24.6%、「10分未満」及び「1時間以上2時間未満」が17.5%となっています。（図2-15）

(9) ケアの内容（ケアの対象者が18歳未満）

<あなたがケアをしている方のうち、18歳未満の方について、御回答ください。（問16～問19）>
 問16 あなた（身近な方）が行っているケアの内容を教えてください。（いくつでも）

- <A 日々の暮らしに関すること> <B サービス等の利用や各種手続きに関すること>
 <C 趣味や余暇活動に関すること> <D 使用する言語に関すること>
 <E その他>

【図2-16 ケアの内容（ケアの対象者が18歳未満）】



回答者が行っているケアの内容は、＜A 日々の暮らしに関すること＞では、「通院の援助（送迎、付き添い、薬の受け取りなど）」及び「安心のための見守り（居宅内での見守り、声掛けなど）」が73.3%で最も多く、次いで「身の回りの安全確保の援助（事故等の予防、通常と異なる場合への対応など）」が66.7%となっています。

＜B サービス等の利用や各種手続に関すること＞では、「サービス等の利用や各種手続のための援助（情報収集、相談、調整、手続など）」が60.0%、「サービス等の利用中の援助（デイサービスへの送迎や付き添いなど）」が53.3%となっています。

＜C 趣味や余暇活動に関すること＞では、「趣味や余暇の支援（テレビや動画の視聴、読書、音楽鑑賞、ゲームなど）」が73.3%で最も多く、次いで「催し物（スポーツ観戦、演劇、コンサートなど）の同行」及び「旅行の同行」が53.3%となっています。

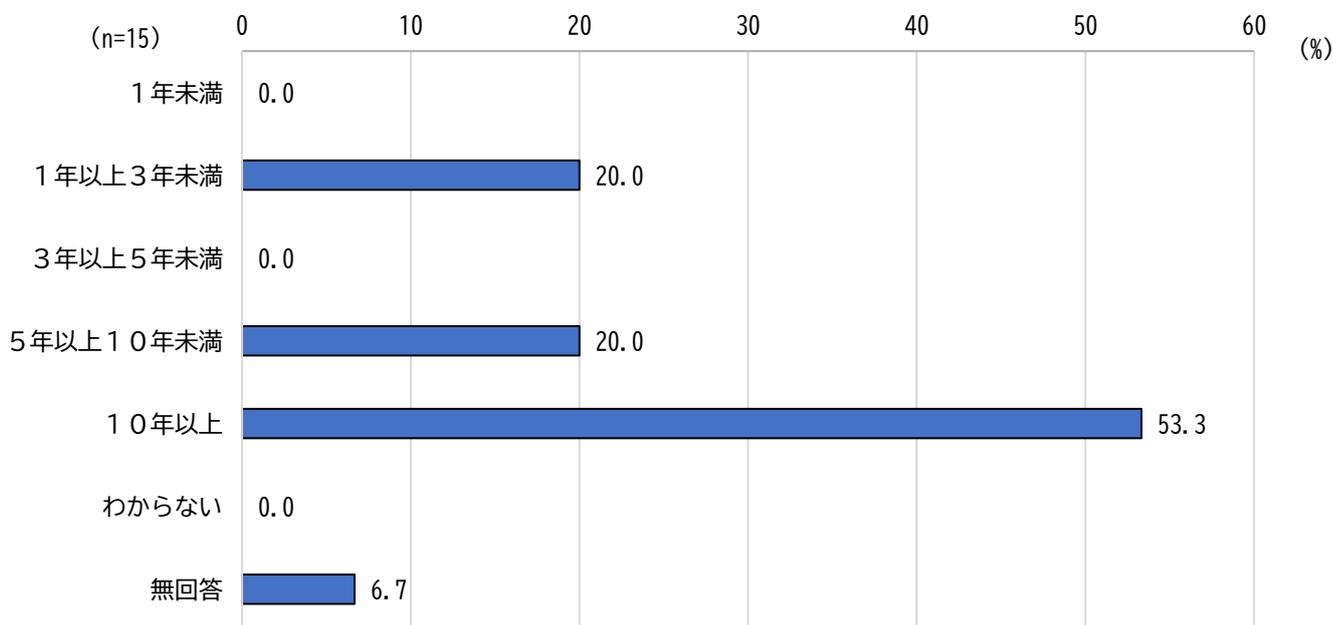
＜D 使用する言語に関すること＞では、「サービス利用や各種手続における通訳」及び「日常生活における通訳」が共に26.7%となっています。

（いずれも図2-16）

⑩ ケアの期間（ケアの対象者が18歳未満）

問17 あなた（身近な方）がケアをしている期間を教えてください。（通算）※はつきりとわからない場合は、概ねで御回答ください。

【図2-17 ケアの期間（ケアの対象者が18歳未満）】

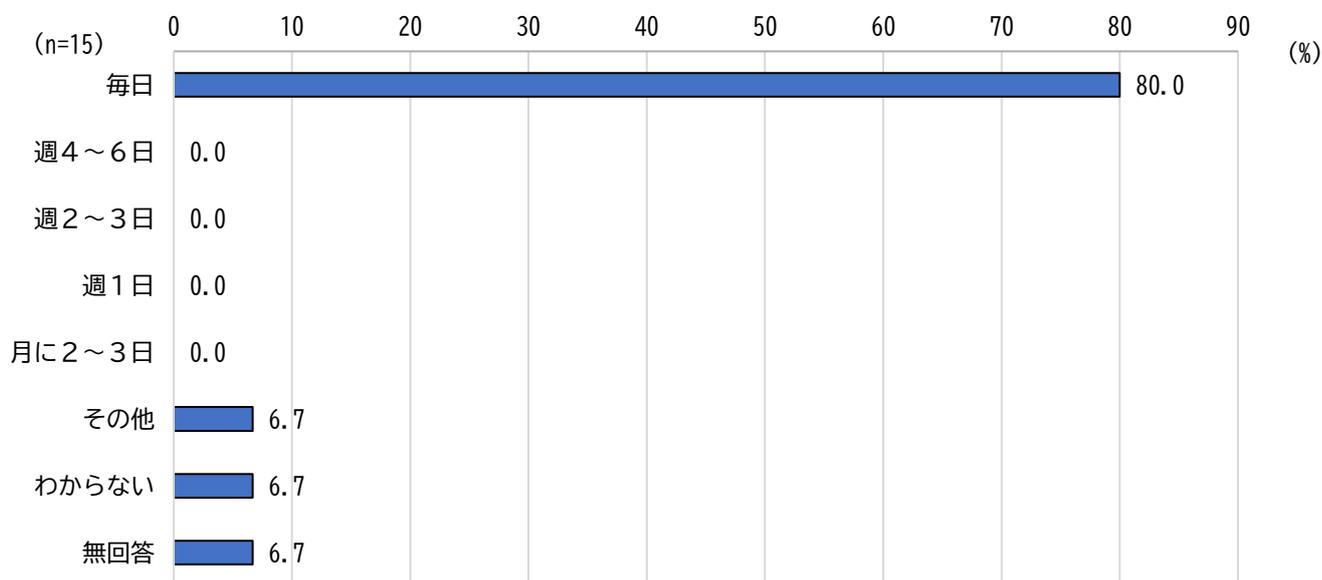


回答者がケアをしている期間は、「10年以上」が53.3%、「1年以上3年未満」及び「5年以上10年未満」が20.0%となっています。（図2-17）

(1) ケアの頻度（ケアの対象者が18歳未満）

問 18 あなた（身近な方）はどのくらいの頻度でケアをしていますか。※はっきりとわからない場合は、概ねで御回答ください。

【図2-18 ケアの頻度（ケアの対象者が18歳未満）】

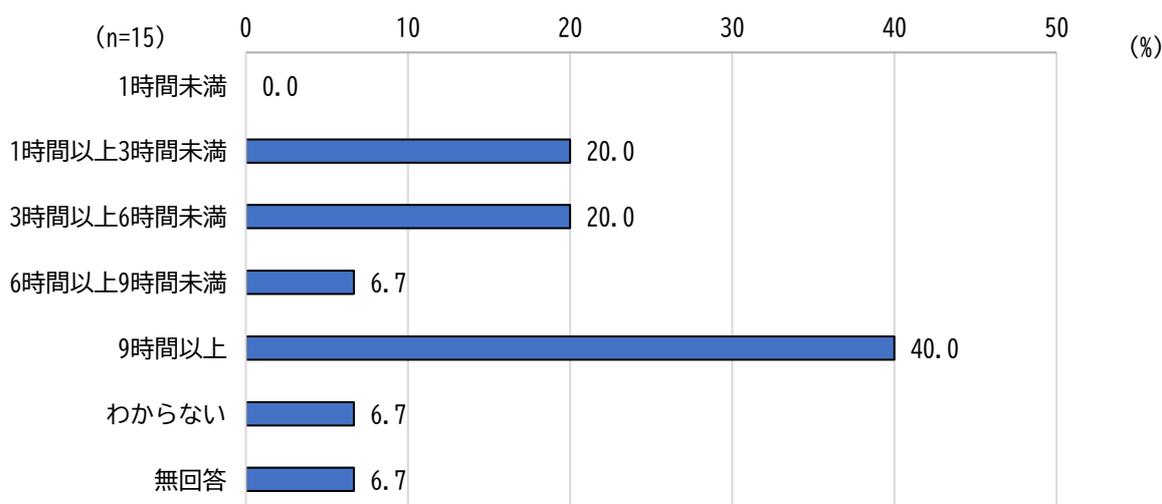


回答者がケアを行っている頻度は、「毎日」が80.0%、「わからない」が6.7%となっています。（図2-18）

(2) ケアの時間（ケアの対象者が18歳未満）

問 19 あなた（身近な方）が1日にケアをしている時間を教えてください。※はっきりとわからない場合は、概ねで御回答ください。

【図2-19 ケアの時間（ケアの対象者が18歳未満）】



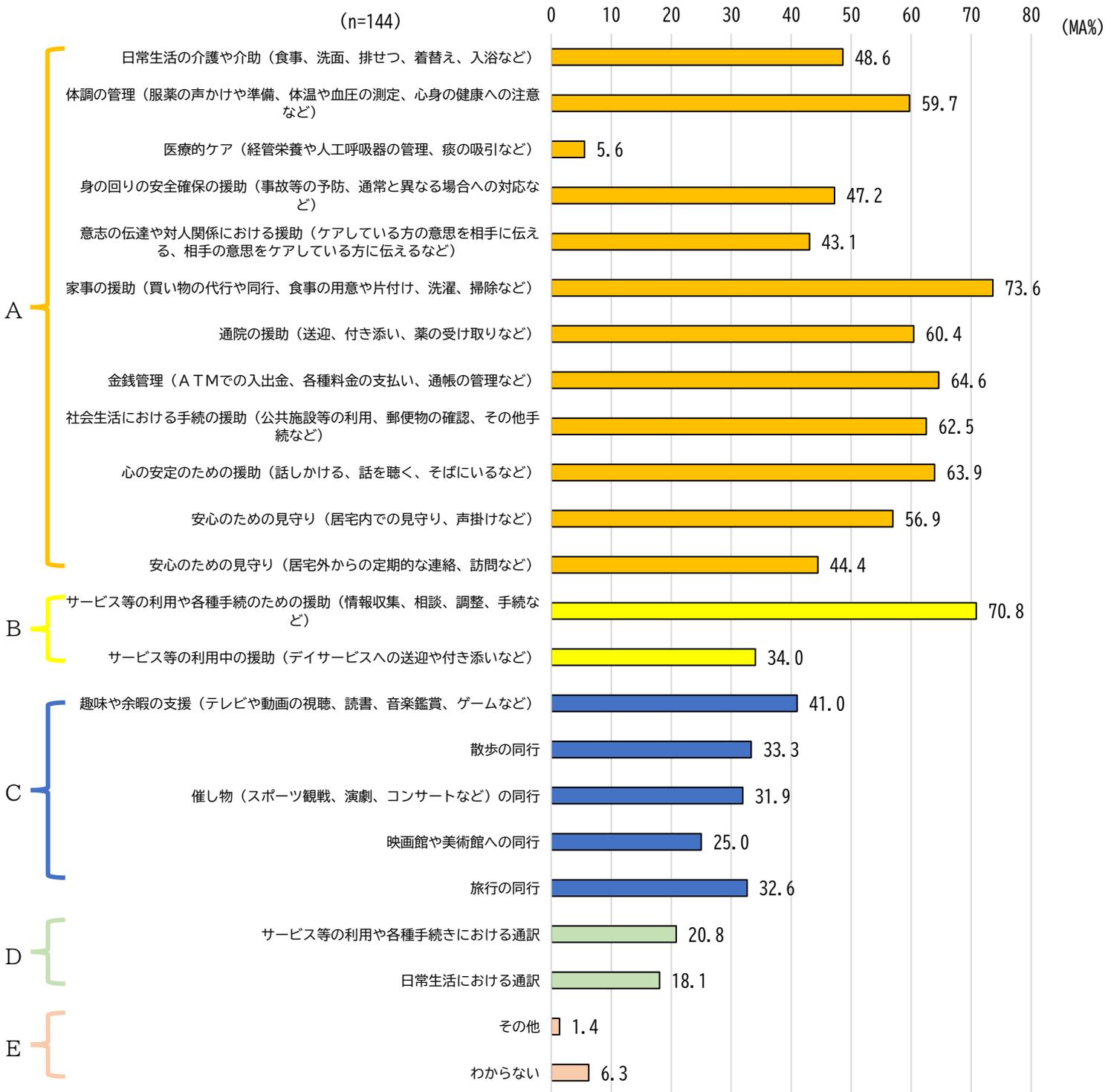
回答者が1日のうちケアを行っている時間は、「9時間以上」が40.0%で最も多く、次いで「1時間以上3時間未満」及び「3時間以上6時間未満」が20.0%となっています。（図2-19）

(13) ケアの内容（ケアの対象者が18歳以上）

<あなたがケアをしている方のうち、18歳以上の方について、御回答ください。（問20～問23）>
 問20 あなた（身近な方）が行っているケアの内容を教えてください。（いくつでも）

- <A 日々の暮らしに関すること> <B サービス等の利用や各種手続きに関すること>
 <C 趣味や余暇活動に関すること> <D 使用する言語に関すること>
 <E その他>

【図2-20 ケアの内容（ケアの対象者が18歳以上）】



回答者が行っているケアの内容は、＜A 日々の暮らしに関すること＞では、「家事の援助（買い物
の代行や同行、食事の用意や片付け、洗濯、掃除など）」が73.6%で最も多く、次いで「金銭管理（A
TMでの入出金、各種料金の支払い、通帳の管理など）」が64.6%、「心の安定のための援助（話しかけ
る、話を聴く、そばにいるなど）」が63.9%となっています。

＜B サービス等の利用や各種手続に関すること＞では、「サービス等の利用や各種手続のための援
助（情報収集、相談、調整、手続など）」が70.8%、「サービス等の利用中の援助（デイサービスへの送
迎や付き添いなど）」が34.0%となっています。

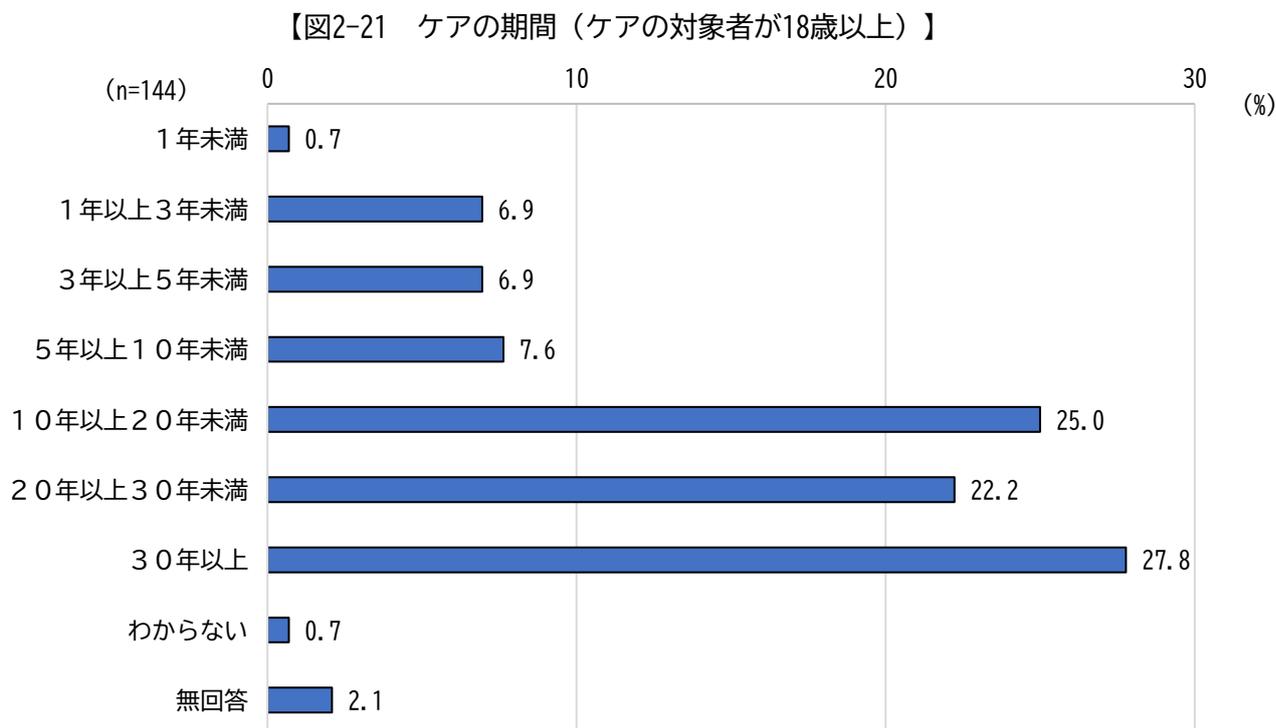
＜C 趣味や余暇活動に関すること＞では、「趣味や余暇の支援（テレビや動画の視聴、読書、音楽
鑑賞、ゲームなど）」が41.0%で最も多く、次いで「散歩の同行」が33.3%、「旅行の同行」が32.6%
となっています。

＜D 使用する言語に関すること＞では、「サービス利用や各種手続における通訳」が20.8%、「日常
生活における通訳」が18.1%となっています。

（いずれも図 2-20）

(14) ケアの期間（ケアの対象者が18歳以上）

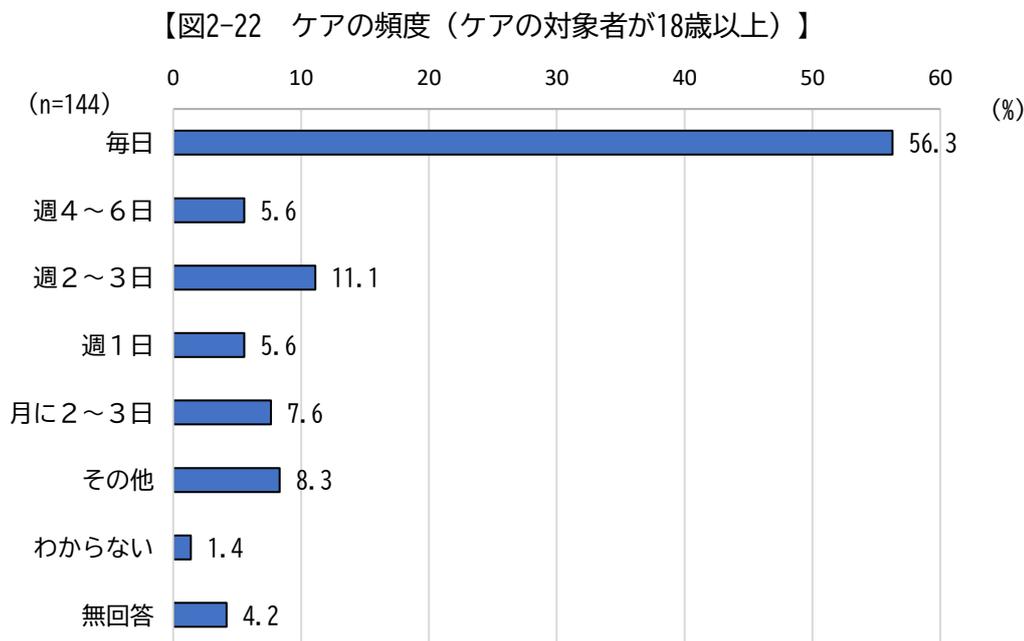
問 21 あなた（身近な方）がケアをしている期間を教えてください。（通算）※はつきりとわからない
場合は、概ねで御回答ください。



回答者がケアをしている期間は、「30年以上」が27.8%で最も多く、次いで「10年以上20年未
満」が25.0%、「20年以上30年未満」が22.2%となっています。（図 2-21）

(15) ケアの頻度（ケアの対象者が18歳以上）

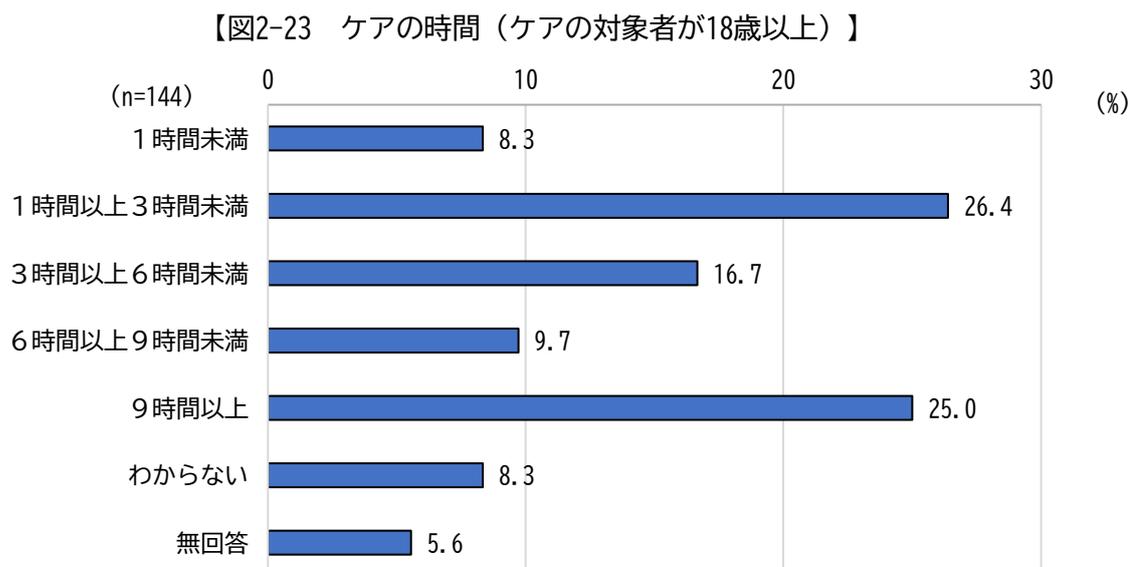
問 22 あなた（身近な方）はどのくらいの頻度でケアをしていますか。※はっきりとわからない場合は、概ねで御回答ください。



回答者がケアを行っている頻度は、「毎日」が56.3%で最も多く、次いで「週2～3日」が11.1%、「月に2～3日」が7.6%となっています。（図2-22）

(16) ケアの時間（ケアの対象者が18歳以上）

問 23 あなた（身近な方）が1日にケアをしている時間を教えてください。※はっきりとわからない場合は、概ねで御回答ください。

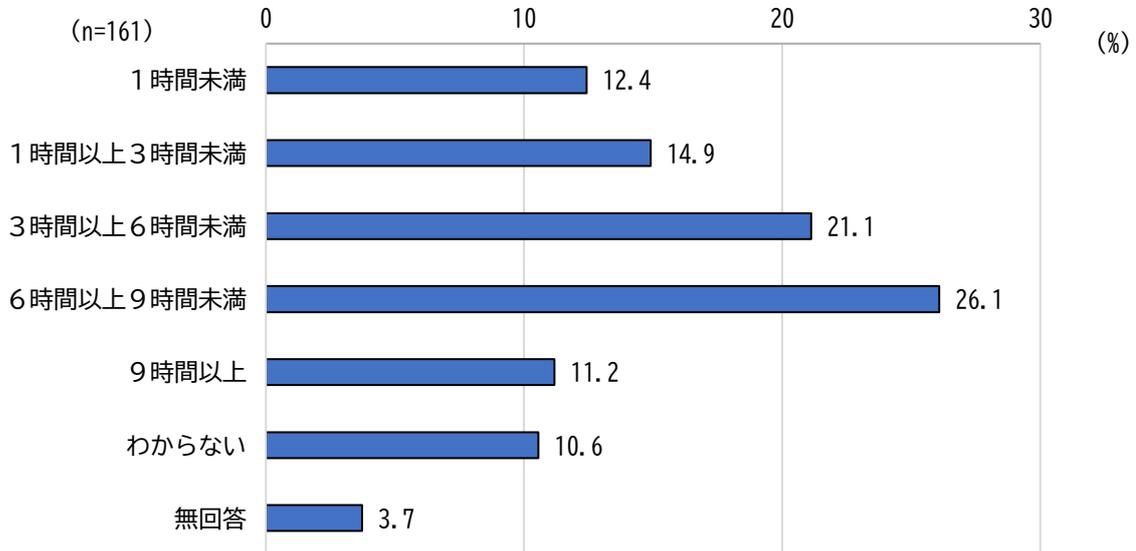


回答者が1日のうちケアを行っている時間は、「1時間以上3時間未満」が26.4%で最も多く、次いで「9時間以上」が25.0%、「3時間以上6時間未満」が16.7%となっています。（図2-23）

(17) 休息時間

問 24 あなたが1日のうち休息に充てる時間（睡眠、疲労回復や心身のリフレッシュを図るための時間）について教えてください。※はっきりとわからない場合は、概ねで御回答ください。

【図2-24 休息時間】

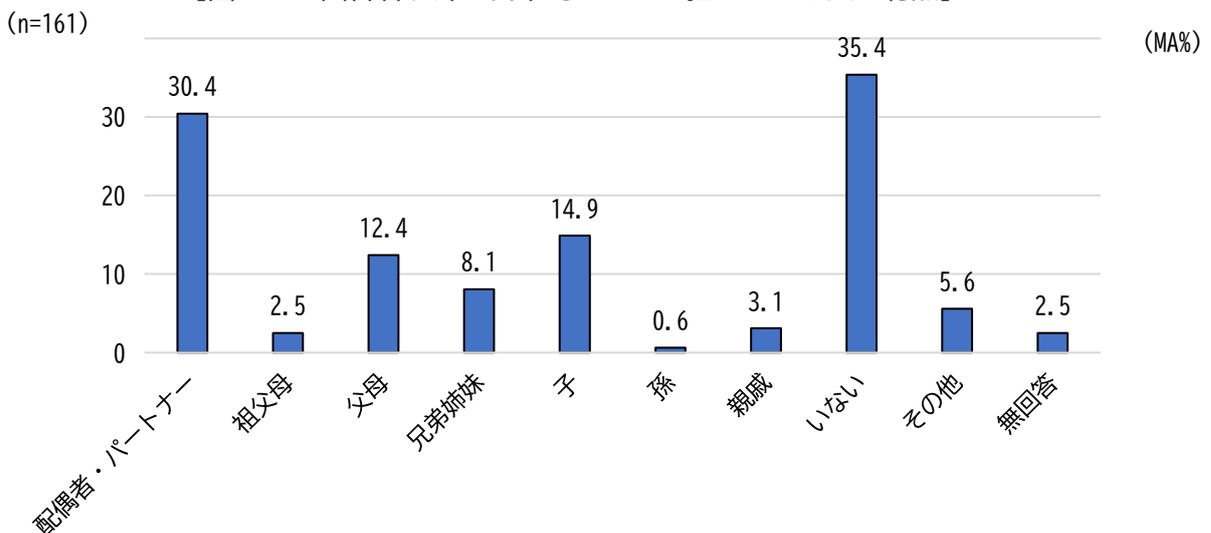


回答者の1日のうちの休息時間は、「6時間以上9時間未満」が26.1%で最も多く、次いで「3時間以上6時間未満」が21.1%、「1時間以上3時間未満」が14.9%となっています。（図2-24）

(18) 回答者以外で日常的にケアを担っている人の有無

問 25 あなた（身近な方）の家族等のうち、あなた（身近な方）以外で、日常的にケアを担っている人はいますか。（いくつでも）

【図2-25 回答者以外で日常的にケアを担っている人の有無】

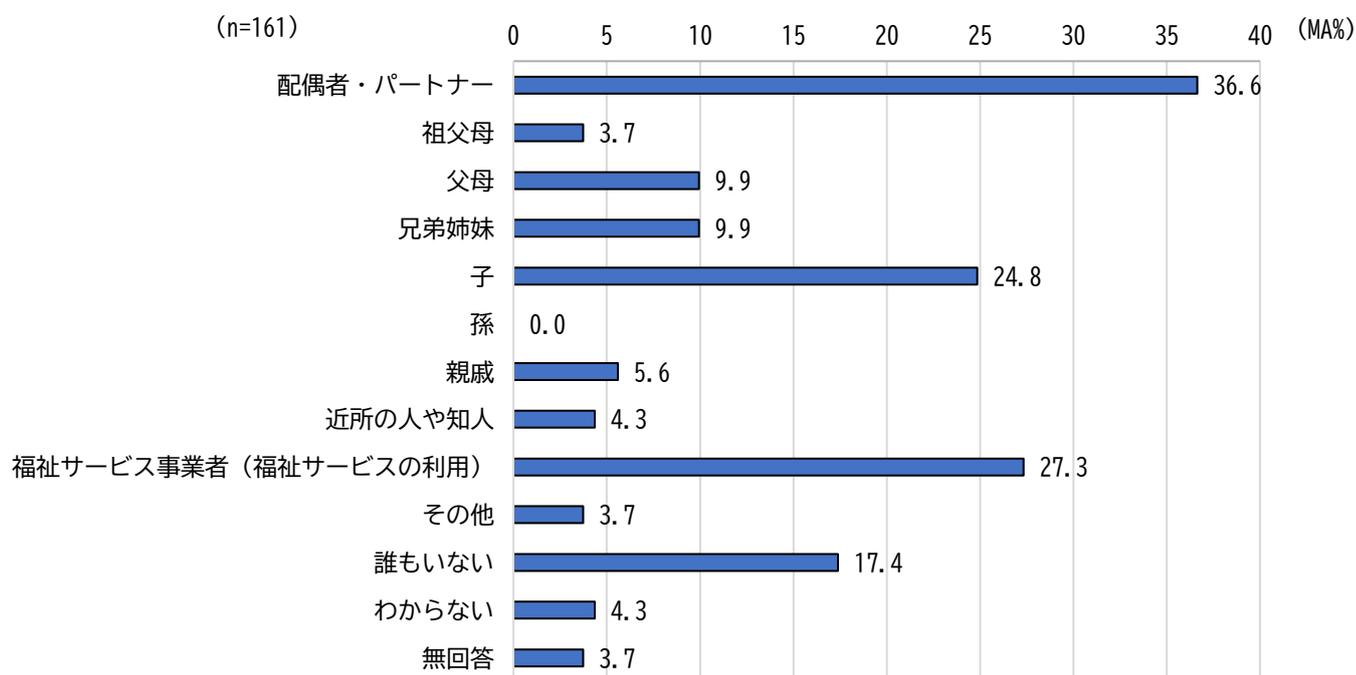


回答者の家族等のうち、回答者以外で日常的にケアを担っている人の有無は、「いない」が35.4%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が30.4%、「子」が14.9%となっています。（図2-25）

(19) 代わりにケアをしてくれる人の有無

問 26 あなた（身近な方）の体調が悪い時など、代わりにケアをしてくれる人はいますか。（いくつでも）

【図2-26 代わりにケアをしてくれる人の有無】

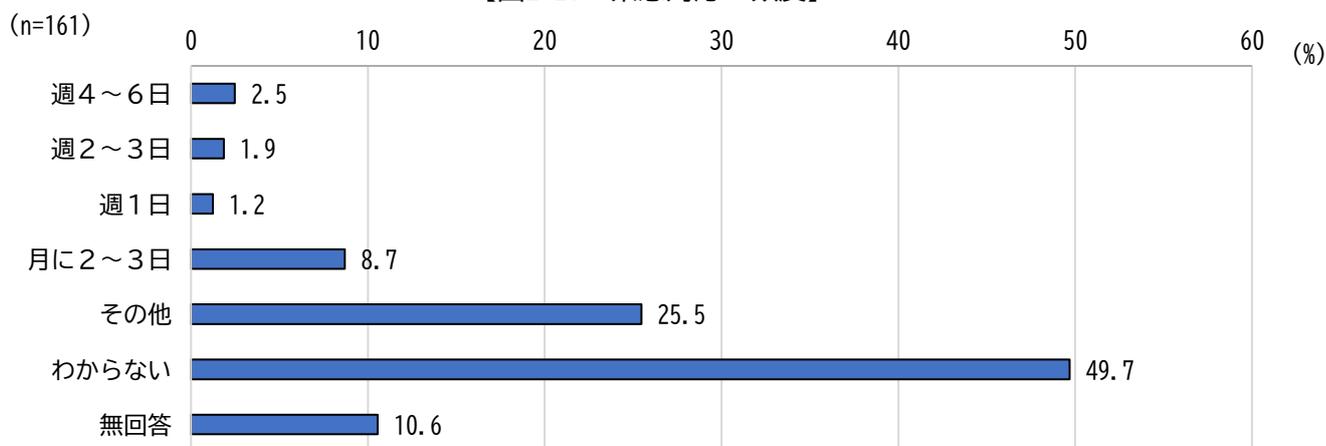


回答者の代わりにケアをしてくれる人の有無は、「配偶者・パートナー」が36.6%で最も多く、次いで「福祉サービス事業者（福祉サービスの利用）」が27.3%、「子」が24.8%となっています。（図2-26）

(20) 緊急対応の頻度

問 27 緊急の対応が必要となる頻度（あなた（身近な方）だけでは対応できない状況が生じる頻度）を教えてください。

【図2-27 緊急対応の頻度】



回答者の緊急の対応が必要となる頻度は、「わからない」が49.7%、「月に2～3日」8.7%となっています。（図2-27）

(21) 緊急対応時に必要な対応

問 28 緊急の対応が必要となるときに、どのような対応があればよいと思いますか。(自由記述)

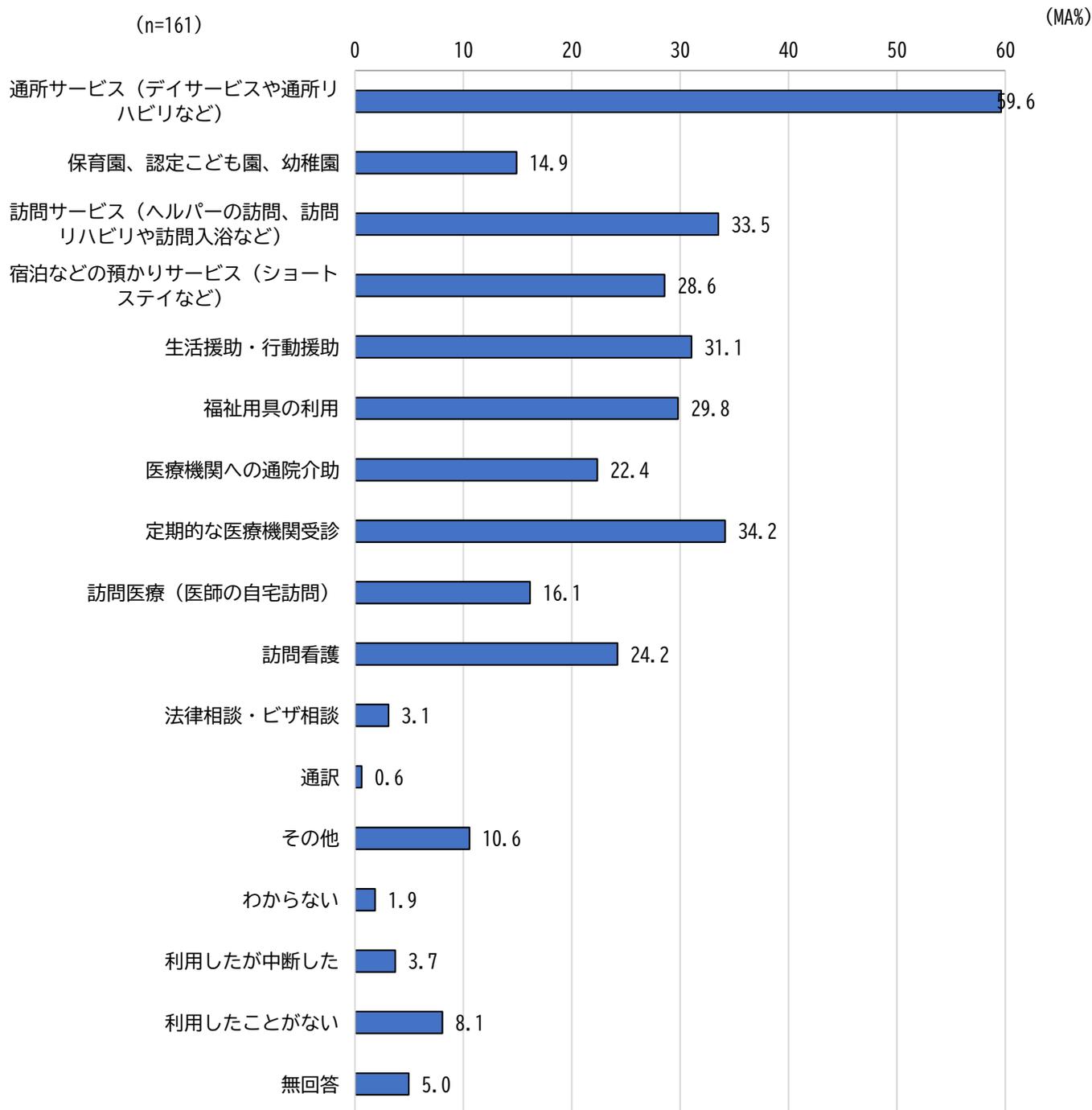
主な御意見の分類	意見数
・ 24 時間いつでも対応ができるサービスに関する事	16
・ 緊急時にすぐに支援者が駆けつけるサービスに関する事	
・ 救急車や訪問看護の利用に関する事	12
・ 緊急一時入所できる施設に関する事	9
・ ショートステイの利用に関する事	
・ 入院や通院時の支援に関する事	8
・ 何でも相談できる人や場所に関する事	7
・ 家族以外の第三者による支援に関する事	6
・ 緊急時の子どもの預かりや送迎に関する事	5
・ 本人や家族に寄り添った支援に関する事	5
・ 専門職による支援に関する事	4
・ その他	10
計	82

4 サービス等の利用について

(1) 利用サービス等

問 29 あなた（身近な方）がケアをしている方が利用している（したことがある）サービス等を教えてください。（いくつでも）

【図2-28 利用サービス等】



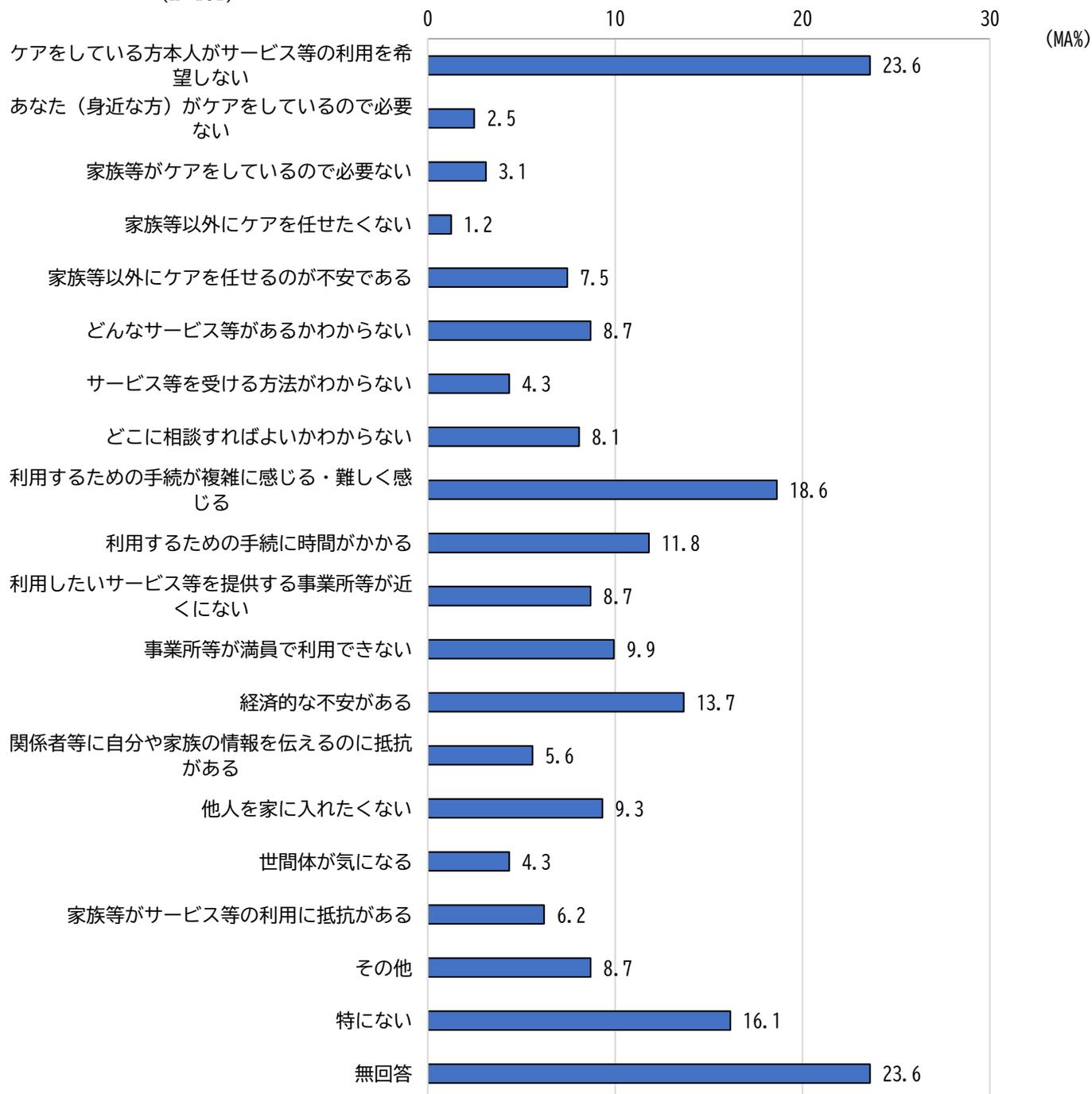
回答者がケアをしている人が利用している（したことがある）サービス等は、「通所サービス（デイサービスや通所リハビリなど）」が59.6%で最も多く、次いで「定期的な医療機関受診」が34.2%、「訪問サービス（ヘルパーの訪問、訪問リハビリや訪問入浴など）」が33.5%となっています。（図2-28）

(2) サービス等の利用に当たって気になること

問 30 サービス等の利用に当たって気になること（サービス等を利用したことがない方は、利用していない理由）を教えてください。（いくつでも）

【図2-29 サービス等の利用に当たって気になること】

(n=161)

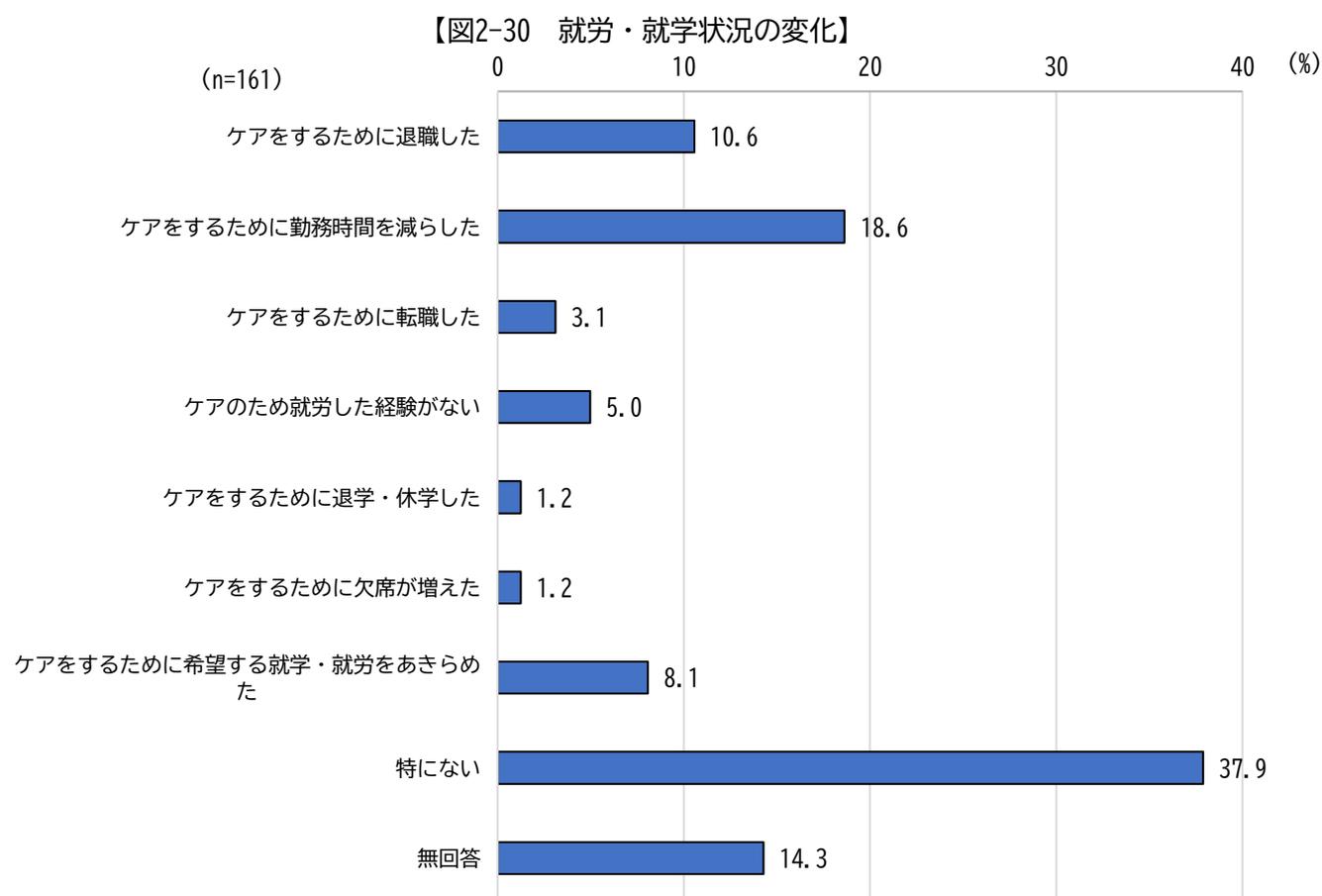


回答者がサービス等の利用に当たって気になることは、「ケアしている方本人がサービス等の利用を希望しない」が23.6%で最も多く、次いで「利用するための手順が複雑に感じる・難しく感じる」が18.6%、「特にない」が16.1%となっています。（図2-29）

5 就労・就学への影響について

(1) 就労・就学状況の変化

問 31 ケアをすることにより、あなた（身近な方）の就労・就学状況は変化しましたか。

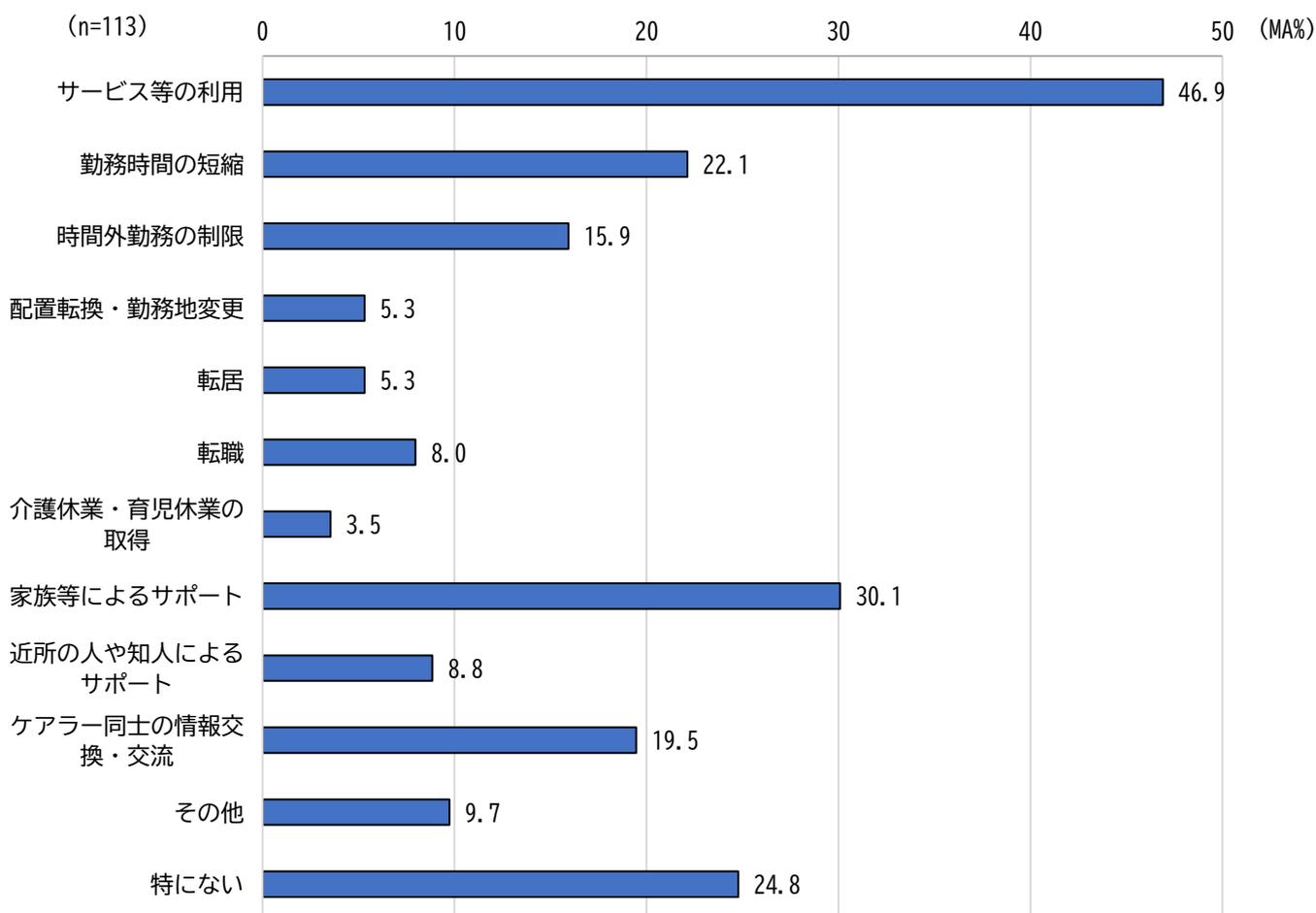


回答者のケアをすることによる就労・就学状況の変化は、「特にない」が37.9%で最も多く、次いで「ケアをするために勤務時間を減らした」が18.6%、「ケアをするために退職した」が10.6%となっています。（図2-30）

(2) 就労・就学の継続のために行ったことや役立ったこと

問 32 ケアをしながら就労（就学）されている方（が身近にいる方）に伺います。あなた（身近な方）が就労（就学）を続けるために行ったことや、役立ったことを教えてください。（いくつでも）

【図2-31 就労・就学の継続のために行ったことや役立ったこと】

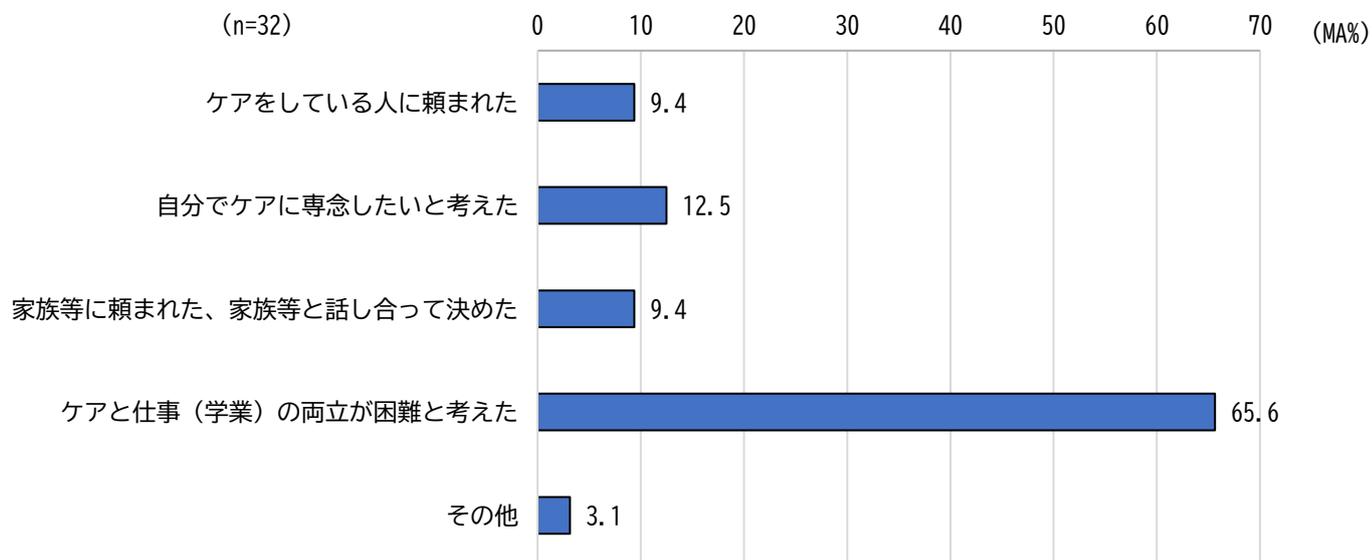


回答者がケアをしながら就労・就学を続けるために役立ったことは、「サービス等の利用」が46.9%で最も多く、次いで「家族等によるサポート」が30.1%、「特になし」が24.8%となっています。（図2-31）

(3) 退職・退学した理由

問 33 ケアをするために退職・退学された方（が身近にいる方）に伺います。あなた（身近な方）が退職・退学された理由を教えてください。（いくつでも）

【図2-32 退職・退学した理由】

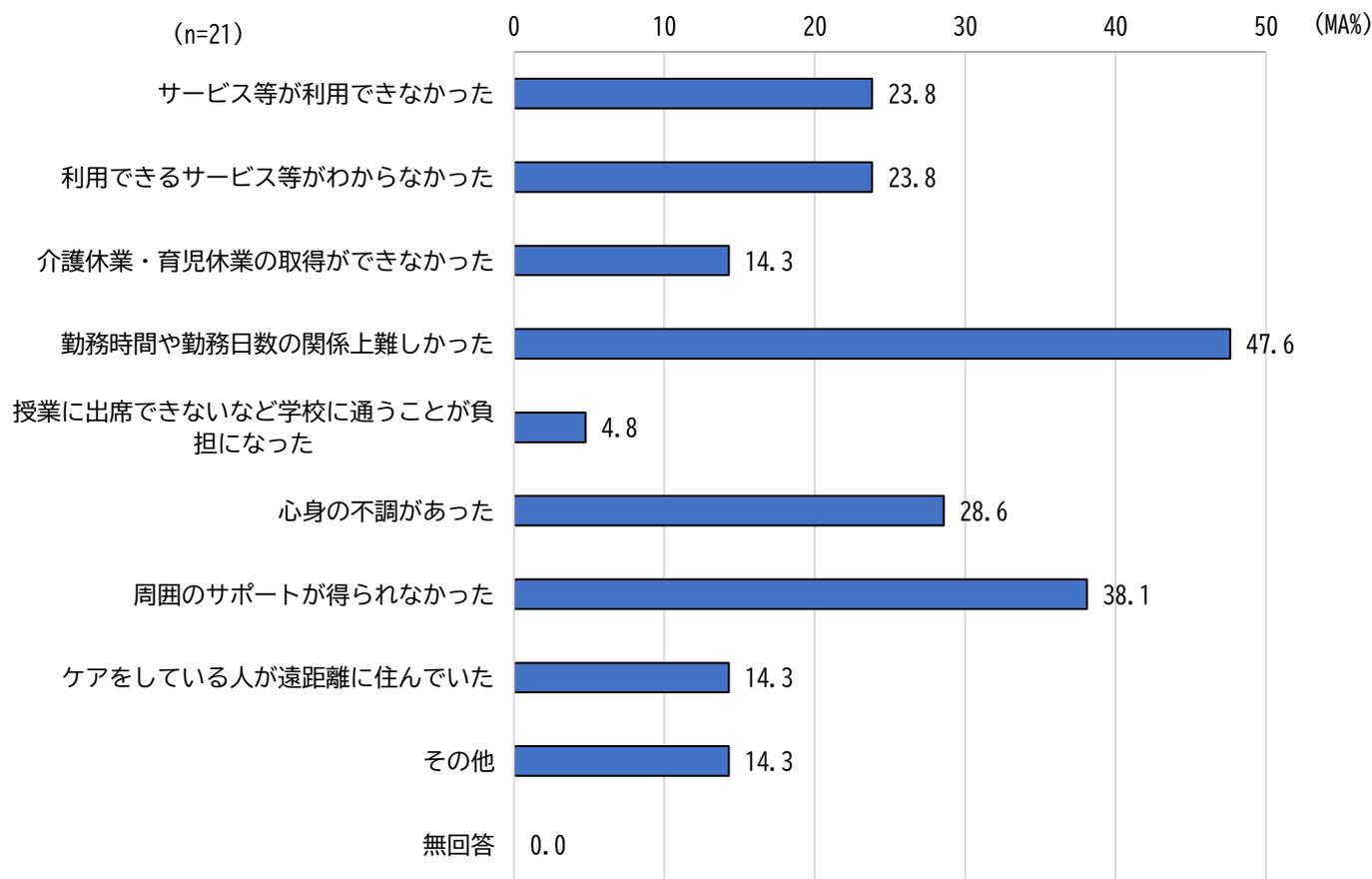


回答者が退職・退学した理由は、「ケアと仕事（学業）の両立が困難と考えた」が65.6%で最も多く、次いで「自分でケアに専念したいと考えた」が12.5%、「ケアをしている人に頼まれた」及び「家族等に頼まれた、家族等と話し合っ決めて」が9.4%となっています。（図2-32）

(4) ケアと仕事（学業）の両立困難の理由

問 34 問 33 で「ケアと仕事（学業）の両立が困難と考えたため」と答えた方にお尋ねします。このように考えた理由を教えてください。（いくつでも）

【図2-33 ケアと仕事（学業）の両立困難の理由】



回答者がケアと仕事（学業）の両立が困難と考えた理由は、「勤務時間や勤務日数の関係上難しかった」が47.6%で最も多く、次いで「周囲のサポートが得られなかった」が38.1%、「サービス等が利用できなかった」及び「利用できるサービス等がわからなかった」が23.8%となっています。（図2-33）

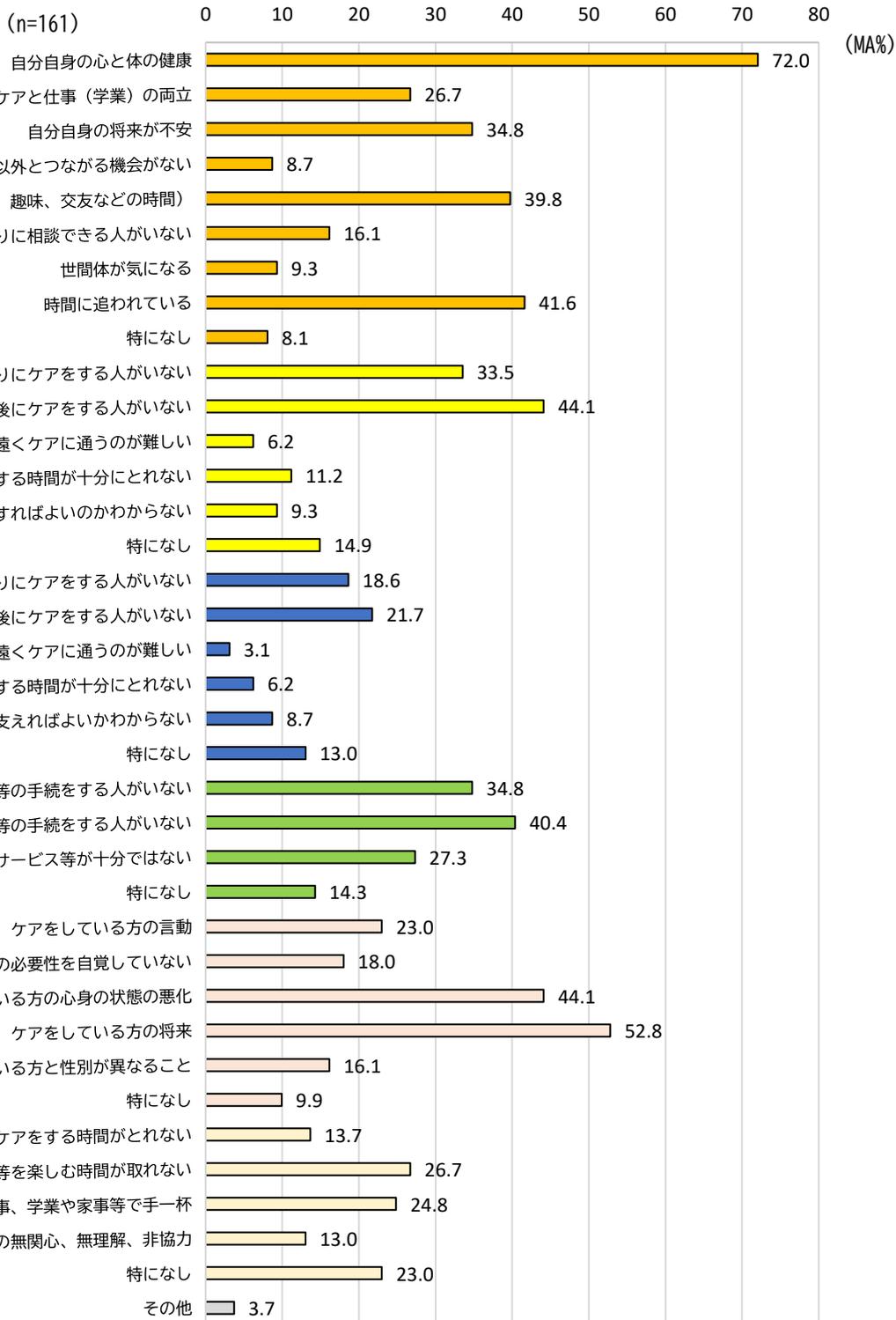
6 ケアラー自身（身近にケアラーがいる人自身）について

(1) ケアに関する困りごとや悩みごと

問 35 あなたがケア（身近な方がケアをしていることを含む。以下同じ。）で困ったことや、悩んでいることはありますか。（いくつでも）

- <A あなた自身のこと> <B あなたが行っているケアに関すること>
 <C 身近な方が行っているケアに関すること> <D サービス等の利用に関すること>
 <E あなた（身近な方）がケアをしている方のこと>
 <F あなた（身近な方）の世帯や家族等のこと> <G その他>

【図2-34 ケアに関する困りごとや悩みごと】



回答者のケアに関する悩みは、＜A あなた自身のこと＞では、「自分自身の心と体の健康」が72.0%で最も多く、次いで「時間に追われている」が41.6%、「自分の時間がとれない（余暇、趣味、交友などの時間）」が39.8%となっています。

＜B あなたが行っているケアに関すること＞では、「将来、自分がいなくなった後にケアをする人がいない」が44.1%で最も多く、次いで「普段、自分のかわりにケアをする人がいない」が33.5%、「特になし」が14.9%となっています。

＜C 身近な方が行っているケアに関すること＞では、「将来、身近な方がいなくなった後にケアをする人がいない」が21.7%で最も多く、次いで「普段、身近な方のかわりにケアをする人がいない」が18.6%、「特になし」が13.0%となっています。

＜D サービス等の利用に関すること＞では、「将来、自分がいなくなった後にサービス等の手続をする人がいない」が40.4%、「普段、自分のかわりにサービス等の手続をする人がいない」が34.8%となっています。

＜E あなた（身近な方）がケアをしている方のこと＞では、「ケアをしている方の将来」が52.8%で最も多く、次いで「ケアをしている方の心身の状態の悪化」が44.1%となっています。

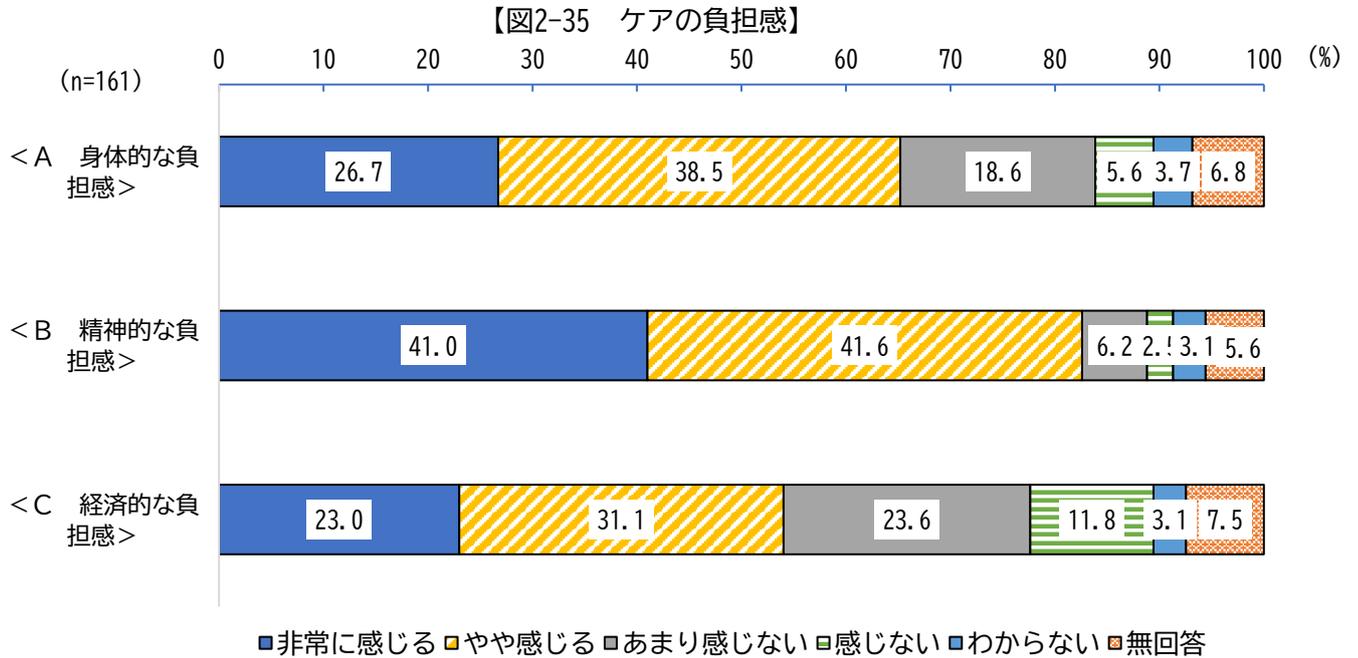
＜F あなた（身近な方）の世帯や家族等のこと＞では、「家族等で一緒に余暇等を楽しむ時間が取れない」が26.7%で最も多く、次いで「家族等も仕事、学業や家事等で手一杯」が24.8%、「特になし」が23.0%となっています。

（いずれも図 2-34）

(2) ケアの負担感

問 36 ケアについて、あなたの負担感を教えてください。

- < A 身体的な負担感 >
- < B 精神的な負担感 >
- < C 経済的な負担感 >



回答者のケアの負担感には、< A 身体的な負担感 >は「やや感じる」が38.5%で最も多く、次いで「非常に感じる」が26.7%となっています。

< B 精神的な負担感 >は「やや感じる」が41.6%で最も多く、次いで「非常に感じる」が41.0%となっています。

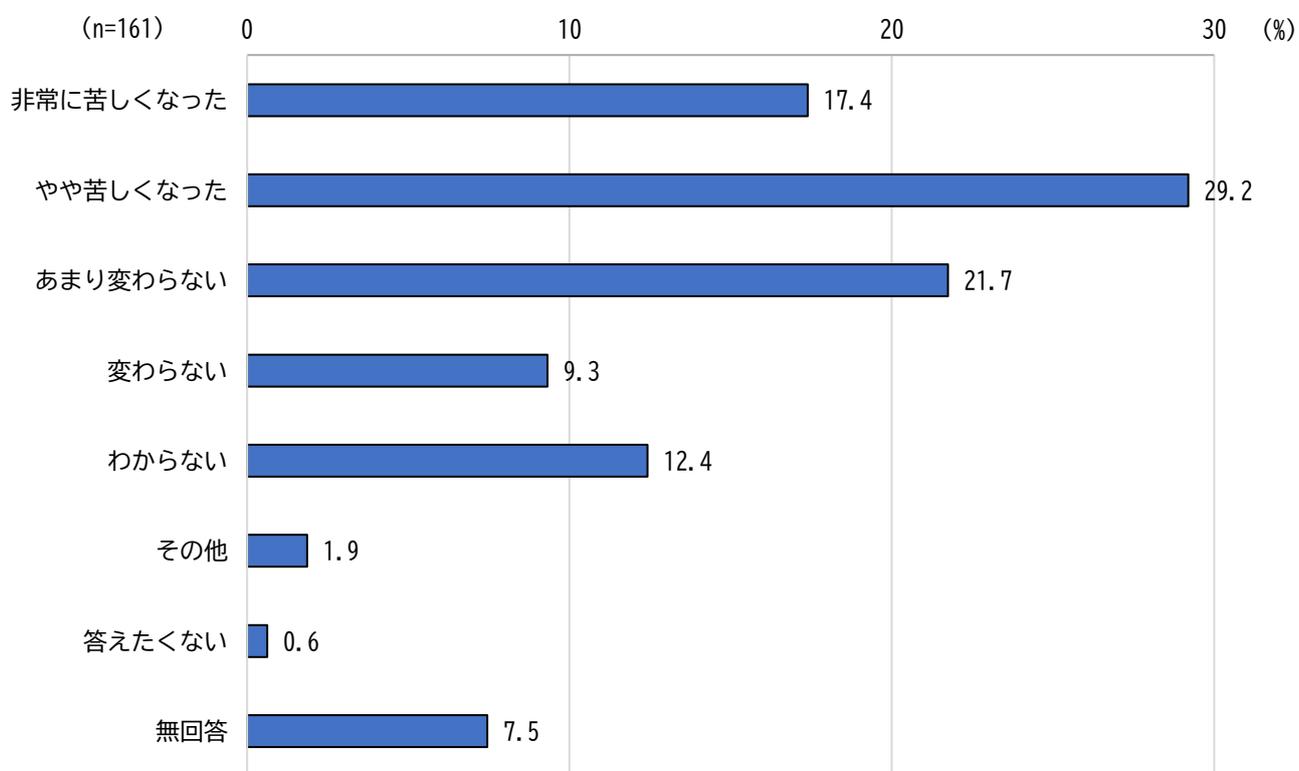
< C 経済的な負担感 >は「やや感じる」が31.1%で最も多く、次いで「あまり感じない」が23.6%となっています。

(いずれも図 2-35)

(3) 暮らし向きの変化

問 37 ケアを開始する前後で暮らし向き（生活の様子や家計の状況）は変化がありましたか。（いくつでも）

【図2-36 暮らし向きの変化】

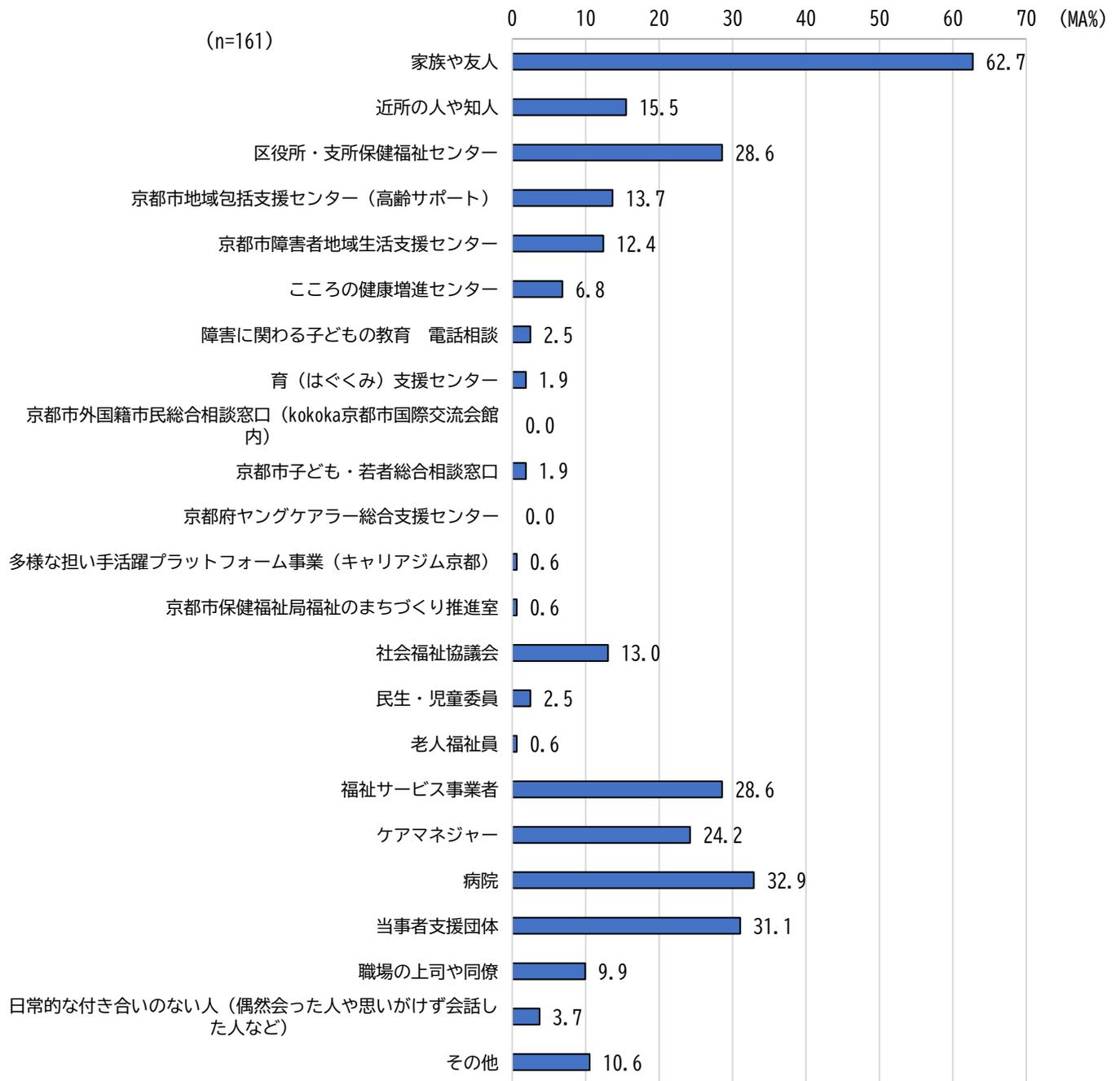


回答者の暮らし向きの変化は、「やや苦しくなった」が29.2%で最も多く、次いで「あまり変わらない」が21.7%、「非常に苦しくなった」が17.4%となっています。（図 2-36）

(4) 相談先

問 38 あなたは困りごとや悩みを相談したことがありますか。相談したことがある人や機関等を教えてください。(いくつでも)

【図2-37 相談先】



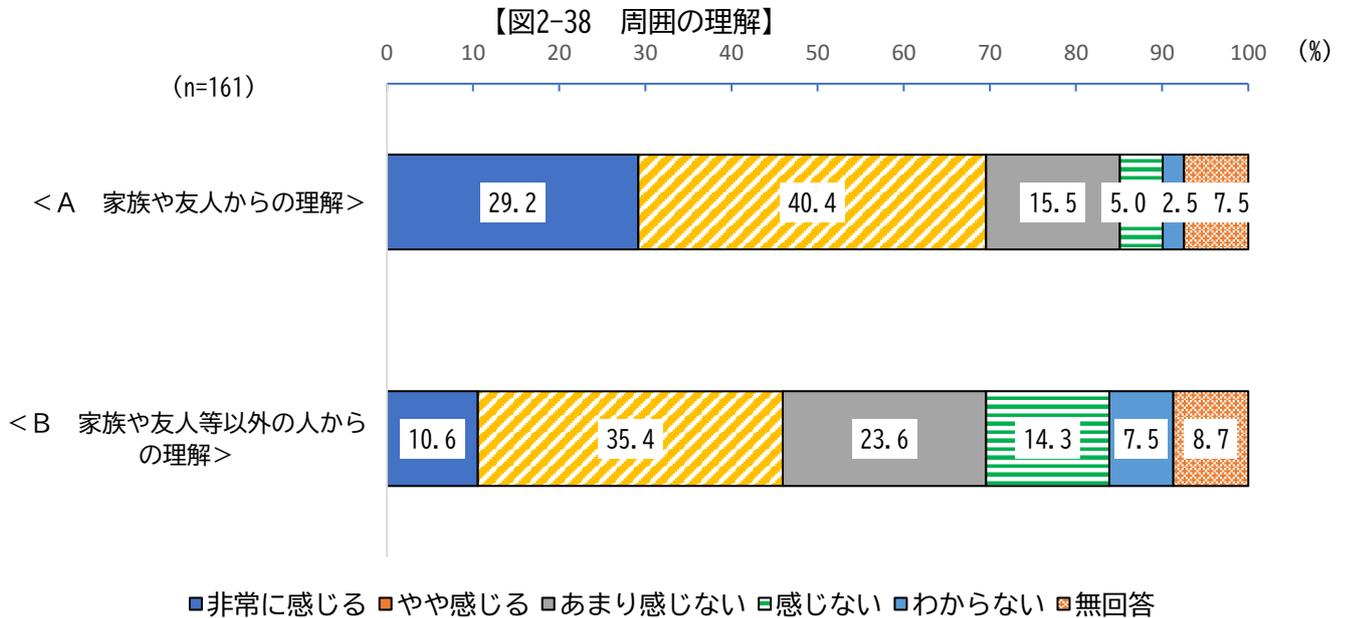
回答者の相談先は、「家族や友人」が62.7%で最も多く、次いで「病院」が32.9%、「当事者支援団体」が31.1%となっています。(図2-37)

(5) 周囲の理解

問 39 あなたは、ケアに関して、あなたのことを周囲の人が理解してくれていると感じますか。

< A 家族や友人から理解 >

< B 家族や友人等以外の人からの理解 >



回答者がケアに関して周囲の人が理解してくれていると感じるかは、< A 家族や友人から理解 >は「やや感じる」が40.4%で最も多く、次いで「非常に感じる」が29.2%となっています。

< B 家族や友人等以外の人からの理解 >は「やや感じる」が35.4%で最も多く、次いで「あまり感じない」が23.6%となっています。

(いずれも図 2-38)

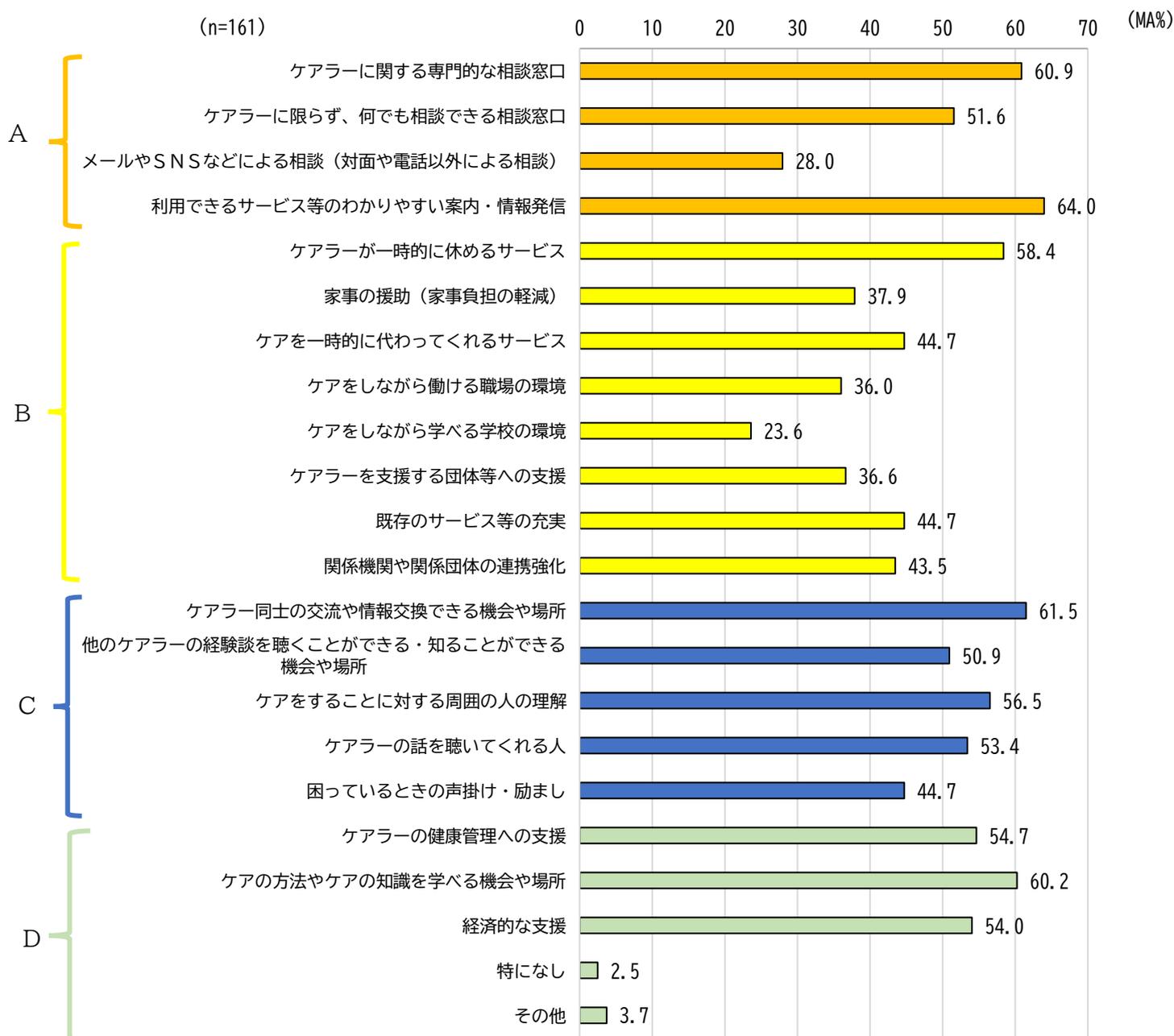
7 その他ケアラー支援に係る意見や要望

(1) ケアラー支援に必要なこと

問 40 ケアラーを支えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

- <A ケアラーが相談できる人や場所、わかりやすい情報発信>
- <B ケアラーの負担を軽減するサービス及び支援>
- <C ケアラーを支える人や場所>
- <D その他支援>

【図2-39 ケアラー支援に必要なこと】



回答者がケアラーを支えるために必要と思うことは、<A ケアラーが相談できる人や場所、わかりやすい情報発信>では、「利用できるサービス等のわかりやすい案内・情報発信」が64.0%で最も多く、次いで「ケアラーに関する専門的な相談窓口」が60.9%、「ケアラーに限らず、何でも相談できる相談窓口」が51.6%となっています。

<B ケアラーの負担を軽減するサービス及び支援>では、「ケアラーが一時的に休めるサービス」が58.4%、「ケアを一時的に代わってくれるサービス」及び「既存のサービス等の充実」が44.7%となっています。

<C ケアラーを支える人や場所>では、「ケアラー同士の交流や情報交換できる機会や場所」が61.5%で最も多く、次いで「ケアをすることに対する周囲の人の理解」が56.5%、「ケアラーの話を聴いてくれる人」が53.4%となっています。

<D その他支援>では、「ケアの方法やケアの知識を学べる機会や場所」が60.2%、「ケアラーの健康管理への支援」が54.7%となっています。

(いずれも図 2-39)

(2) ケアラー支援について

問 41 ケアラーへの支援について、御意見や御要望があれば、記載してください（自由記述）

主な御意見の分類	意見数
・ 既存制度や施策の充実に関する事	17
・ 社会的な理解の促進に関する事	12
・ ケアラーに関する相談窓口の設置に関する事	7
・ 関係者や関係機関の連携やつながりに関する事	4
・ ケアラーの居場所に関する事	4
・ 将来への不安に関する事	2
・ その他	12
・ 特になし	2
計	60

第4章 関係機関等調査の結果

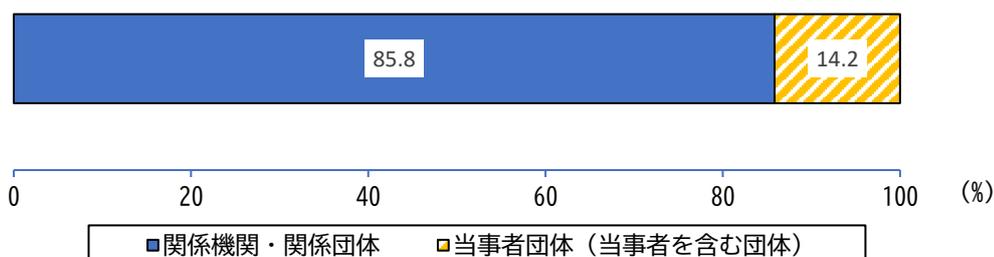
1 基本事項

(1) 機関・団体の種別

問1 貴機関・団体・事業所（以下「貴機関」という。）の種別を教えてください。

【図3-1 機関・団体の種別】

(n=268)



回答があった機関・団体・事業所（以下、「回答機関」という。）の種別は、「関係機関・関係団体」が85.8%、「当事者団体（当事者を含む団体）」が14.2%となっています。（図3-1）

【表3-1-1 関係機関・関係団体の内訳】

回答	回答数
関係機関・関係団体	230
障害児通所支援事業所・入所施設	32
放課後等デイサービス	21
児童発達支援事業所	8
児童発達支援センター	3
保育園(所)・認定こども園・小規模保育事業所等	32
認定こども園（幼保連携型）	15
保育園	5
小規模保育事業所	5
認定こども園（保育所型）	2
認可外保育施設	2
居宅訪問型保育事業所	1
無回答	2
地域包括支援センター	27
児童館・学童クラブ・つどいの広場・放課後ほっと広場	20
児童館	14
学童保育所	3
地域学童	2
放課後ほっと広場	1
民生児童委員・老人福祉員	8

幼稚園・学校・教育機関	8
幼稚園	4
総合支援学校	2
小学校	1
中学校	1
障害福祉サービス等事業所	6
指定特定相談支援	3
居宅介護	1
重度訪問介護	1
日中一時支援（児童）	1
青少年活動センター	6
こども食堂	6
社会的養護関係施設	5
乳児院、児童養護施設、児童心理治療施設、 児童自立生活援助事業所（自立援助ホーム）、 小規模住居型児童養育事業所（ファミリーホーム）	3
母子生活支援施設	2
医療機関	4
介護サービス等事業所	3
介護老人福祉施設	2
訪問介護	1
障害者地域生活支援センター	2
行政機関	60
上記以外	11
主に子ども・若者の支援に関する団体・機関	4
主に障害者・障害児の支援に関する団体・機関	2
主に外国籍市民等の支援に関する団体・機関	1
主に労働者支援・就労支援に関する団体・機関	1
企業	1
無回答	2

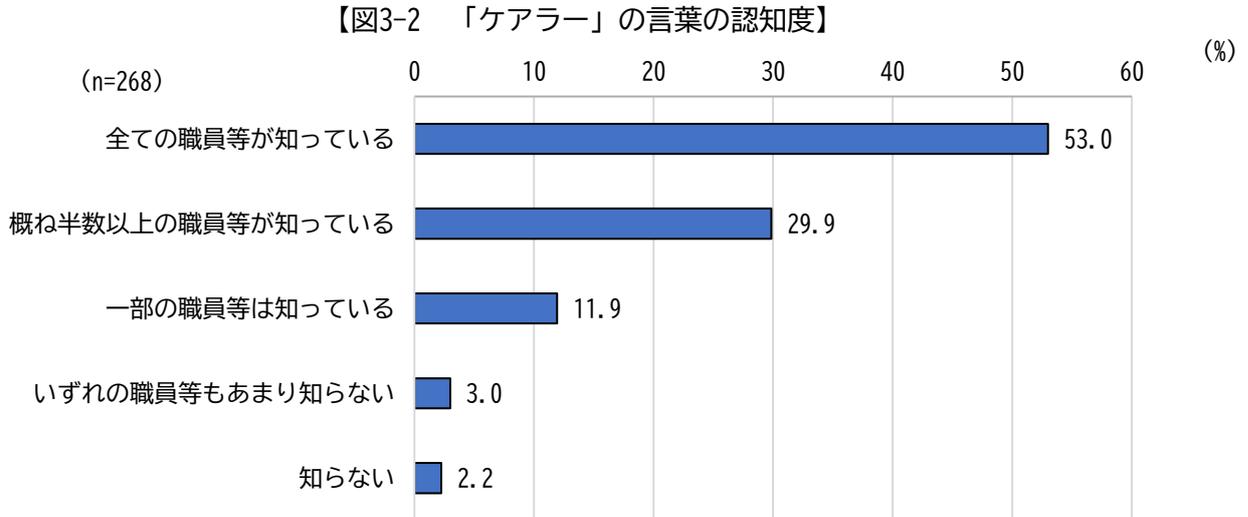
【表 3-1-2 当事者団体の内訳】

回答	回答数
当事者団体（当事者を含む団体）	38
主に子ども・若者の支援に関する団体・機関	23
主に障害者・障害児の支援に関する団体・機関	12
主に高齢者の支援に関する団体・機関	3

2 意識調査

(1) 「ケアラー」の言葉の認知度

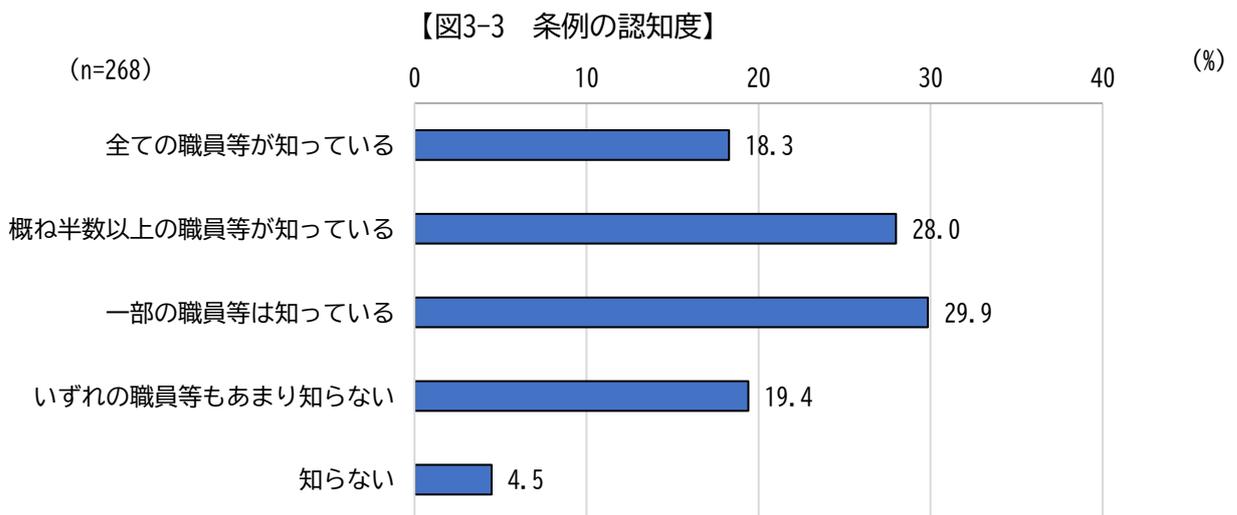
問2 貴機関における「ケアラー」という言葉の認知度を教えてください。



回答機関における「ケアラー」の言葉の認知度は、「全ての職員等が知っている」が53.0%で最も多く、次いで「概ね半数以上の職員等が知っている」が29.9%、「一部の職員等は知っている」が11.9%となっています。（図3-2）

(2) 条例の認知度

問3 貴機関における「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」の認知度を教えてください。



回答機関における「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」の認知度は、「一部の職員等は知っている」が29.9%で最も多く、次いで「概ね半数以上の職員等が知っている」が28.0%、「いずれの職員等もあまり知らない」が19.4%となっています。（図3-3）

3 ケアラー支援の状況

(1) ケアやケアラーに関する相談（関わり）の有無

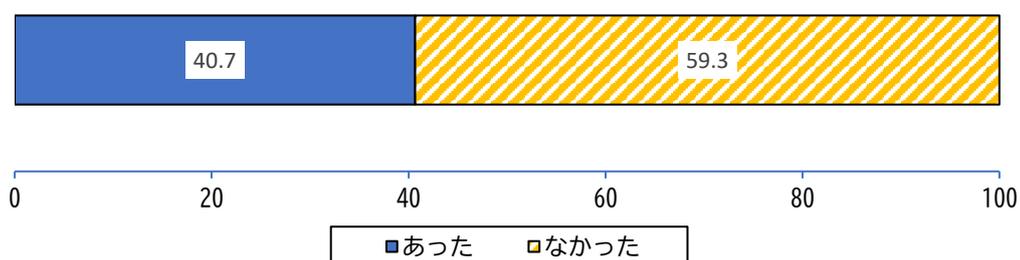
問4 貴機関において、令和6年度にケアやケアラーに関して相談（関わり）がありましたか。「あった」と回答された方は、相談（関わり）があった世帯数を教えてください。

※ 正確な数が不明な場合は、概ねで御回答ください。

問5 問4のうち、ケアラーへの支援（ケアラーの話を聴く、ケアラーを居場所につなぐなど、ケアラーの(潜在)ニーズに基づく、ケアラーを対象とした支援）が必要と考えられる世帯数を教えてください。※正確な数が不明な場合は、概ねで御回答ください。

【図3-4 ケアやケアラーに関する相談（関わり）の有無】

(n=268)



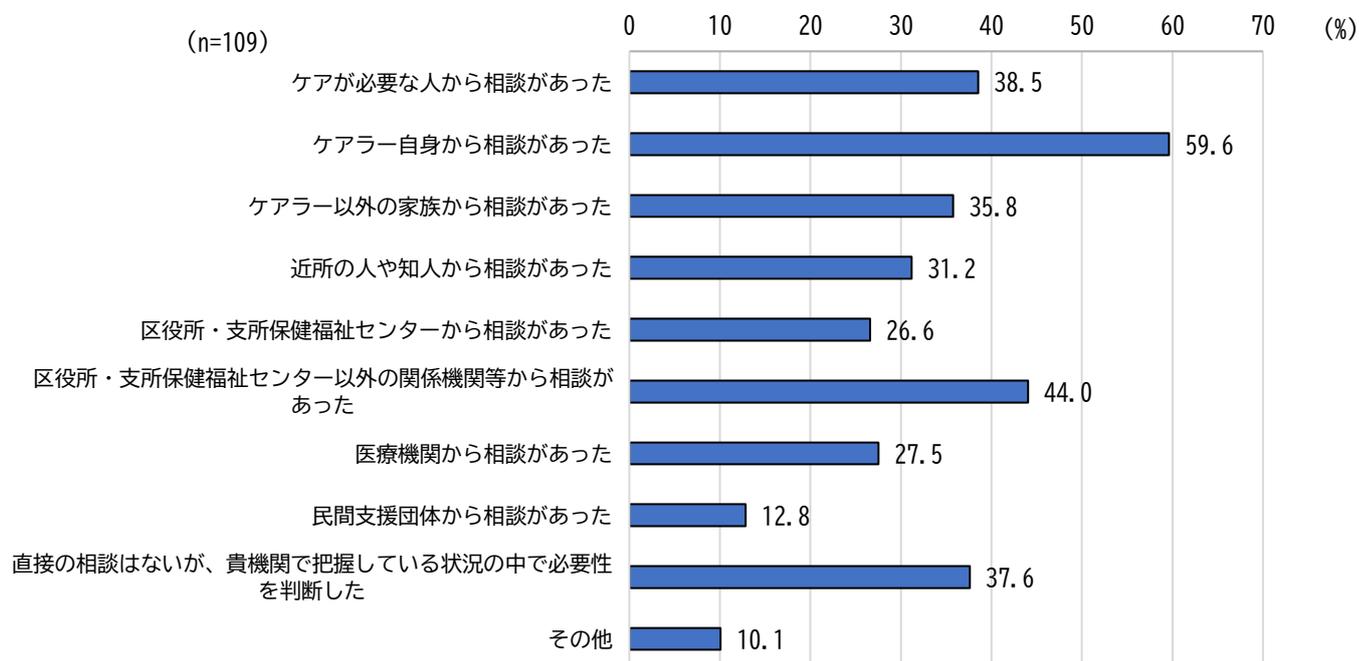
回答機関におけるケアやケアラーに関する相談（関わり）の有無は、「あった」が40.7%、「なかった」が59.3%となっています。（図3-4）

また、ケアやケアラーに関する相談や関わりが「あった」と回答した団体について、相談（関わり）があった世帯数（回答の合計）は「12,874」世帯となっており、そのうち、ケアラーへの支援が必要と考えられる世帯数（回答の合計）は「6,561」世帯となっています。

(2) 相談や支援につながったきっかけ

問6 問5で回答いただいた世帯について、相談や支援につながったきっかけを教えてください。

【図3-5 相談や支援につながったきっかけ】

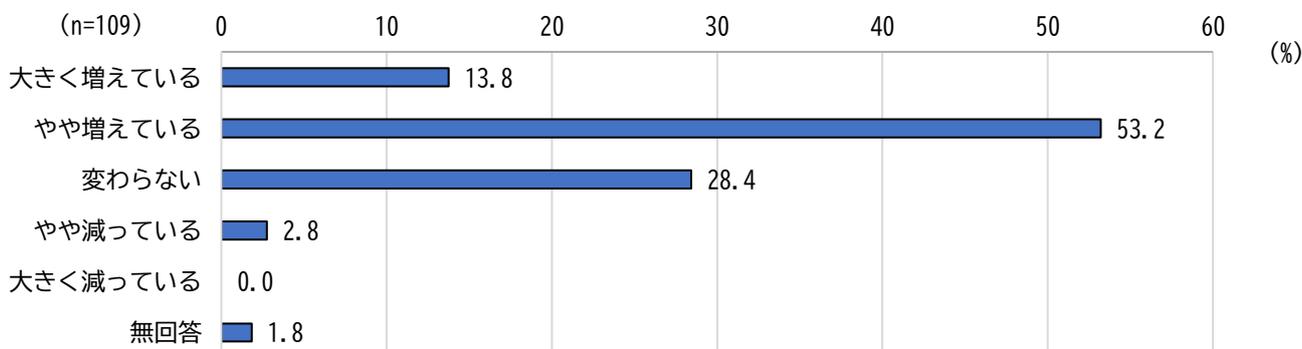


ケアラーへの支援が必要と考えられる世帯が相談や支援につながったきっかけは、「ケアラー自身から相談があった」が59.6%で最も多く、次いで「区役所・支所保健福祉センター以外の関係機関等から相談があった」が44.0%、「ケアが必要な人から相談があった」が38.5%となっています。(図3-5)

(3) ケアラーへの支援が必要な世帯数の傾向

問7 貴機関での関わりにおいて、近年、ケアラーへの支援が必要な世帯数はどのような傾向にありますか。近いものを御回答ください。

【図3-6 ケアラーへの支援が必要な世帯数の傾向】



ケアラーへの支援が必要な世帯数の傾向は、「やや増えている」が53.2%で最も多く、次いで「変わらない」が28.4%、「大きく増えている」が13.8%となっています。(図3-6)

問8 問7のように回答いただいた理由を教えてください。(自由記述)

主な御意見	意見数
大きく増えている <ul style="list-style-type: none"> 介護が必要となる高齢者が増加しているため 地域のつながりが希薄化しているため 普段の業務での関わりを通じて、増えていると感じるため 経済的な理由からサービスを受けられない場合があるため …など 	15
やや増えている <ul style="list-style-type: none"> 療育手帳や精神保健福祉手帳の取得件数が年々増加しているため 当事者からの相談はないが、他の相談内容からケアラーへの支援が必要と思われる内容が増えていると感じる ケアラーの社会的認知度が向上したことで、顕在化されるようになったため 核家族化や共働き世帯の増加等、家族形態に変化が生じているため …など 	59
変わらない <ul style="list-style-type: none"> 認知度の向上によりケアラー世帯が顕在化されたが、実数は変わっていないため 対応している件数等が横ばいであり、増減は感じない ケアが必要な人は増加傾向にあるが、福祉サービスの普及により、相対的にケアラーの件数は増減していないと思うため …など 	31
やや減っている <ul style="list-style-type: none"> 相談窓口や対応可能な支援機関が増えたことにより、相談件数が減少傾向にあるため 少子化により子育て世帯が減少しているため …など 	3
計	109

(4) 実際にケアラーへの支援を実施している世帯数

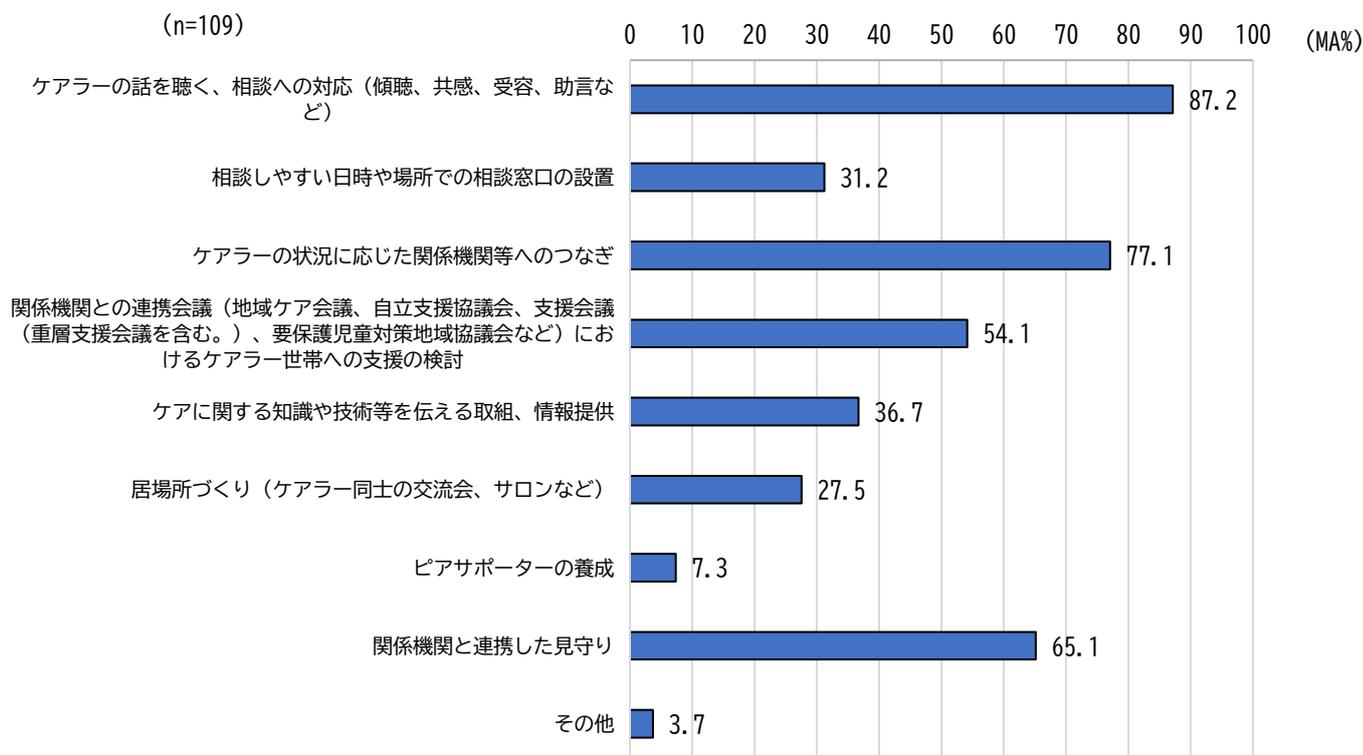
問9 ケアラーへの支援が必要と考えられる世帯（問5の世帯）のうち、実際にケアラーへの支援を実施している世帯数を教えてください。※正確な数が不明な場合は、概ねで御回答ください。

ケアラーへの支援が必要と考えられる世帯数（回答の合計）（6,561世帯）に対し、実際にケアラーへの支援を実施している世帯数（回答の合計）は「5,327」世帯となっています。

(5) ケアラーへの支援（福祉サービス等以外）

問10 ケアラーへの支援として、ケアが必要な人へのサービス（福祉サービス等につなげること）以外に、どのような支援を行っていますか。（いくつでも）

【図3-7 ケアラーへの支援（福祉サービス等以外）】

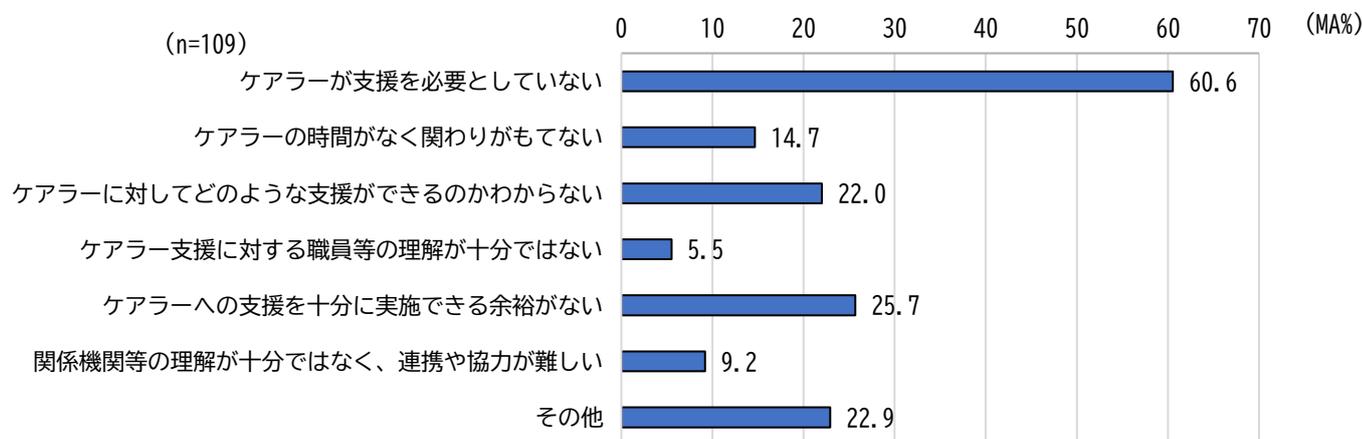


回答機関が行っているケアラーへの支援（福祉サービス等につなげること以外）は、「ケアラーの話を聴く、相談への対応（傾聴、共感、受容、助言など）」が87.2%で最も多く、次いで「ケアラーの状況に応じた関係機関等へのつなぎ」が77.1%、「関係機関と連携した見守り」が65.1%となっています。（図3-7）

(6) ケアラーへの支援を実施していない（できていない）理由

問 11 ケアラーへの支援が必要と考えられる世帯（問5の世帯）のうち、ケアラーへの支援を実施していない世帯について、支援していない（支援できていない）理由を教えてください。（いくつでも）

【図3-8 ケアラーへの支援を実施していない（できていない）理由】

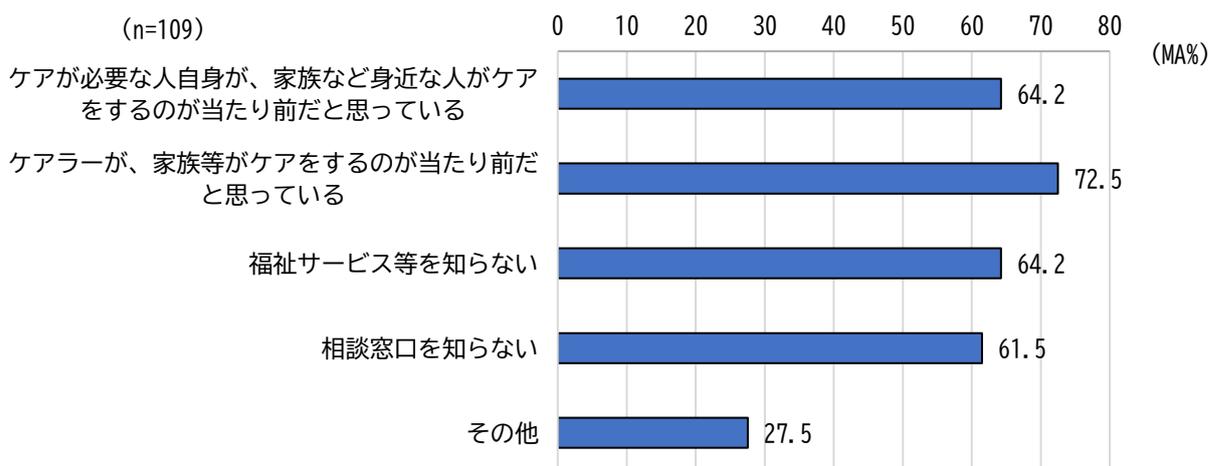


回答機関がケアラーへの支援を実施していない（できていない）理由は、「ケアラーが支援を必要としていない」が60.6%で最も多く、次いで「ケアラーへの支援を十分に実施できる余裕がない」が25.7%、「ケアラーに対してどのように支援ができるのかわからない」が22.0%となっています。（図3-8）

(7) ケアが必要な人やケアラーが相談につながらない理由

問 12 ケアが必要な人やケアラーについて、相談につながらない場合もありますが、その理由について、どのように考えられますか。（いくつでも）

【図3-9 ケアが必要な人やケアラーが相談につながらない理由】

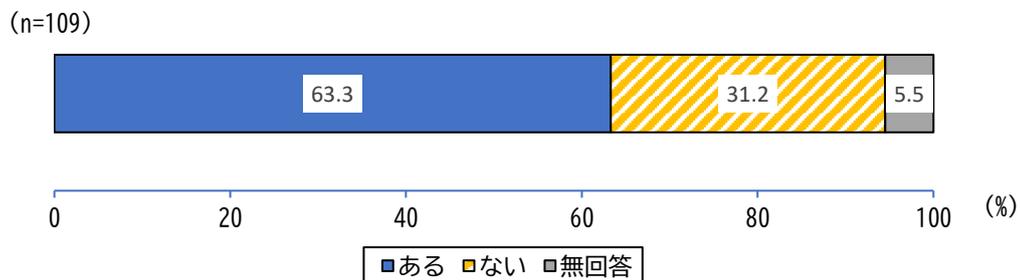


ケアが必要な人やケアラーが相談につながらない理由は、「ケアラーが、家族等がケアをするのが当たり前だと思っている」が72.5%で最も多く、次いで「ケアが必要な人自身が、家族など身近な人がケアをするのが当たり前だと思っている」及び「福祉サービス等を知らない」が64.2%となっています。（図3-9）

(8) 福祉サービス等につながらない事例の有無

問 13 令和6年度において貴機関が受けた相談の中で、ケアが必要な人が、福祉サービス等の利用に至らなかった事例はありますか。(いくつでも)

【図3-10 福祉サービス等につながらない事例の有無】



ケアが必要な人が福祉サービス等の利用に至らなかった事例の有無は、「ある」が63.3%、「ない」が31.2%、「無回答」が5.5%となっています。(図3-10)

(9) 福祉サービス等につながらなかった理由

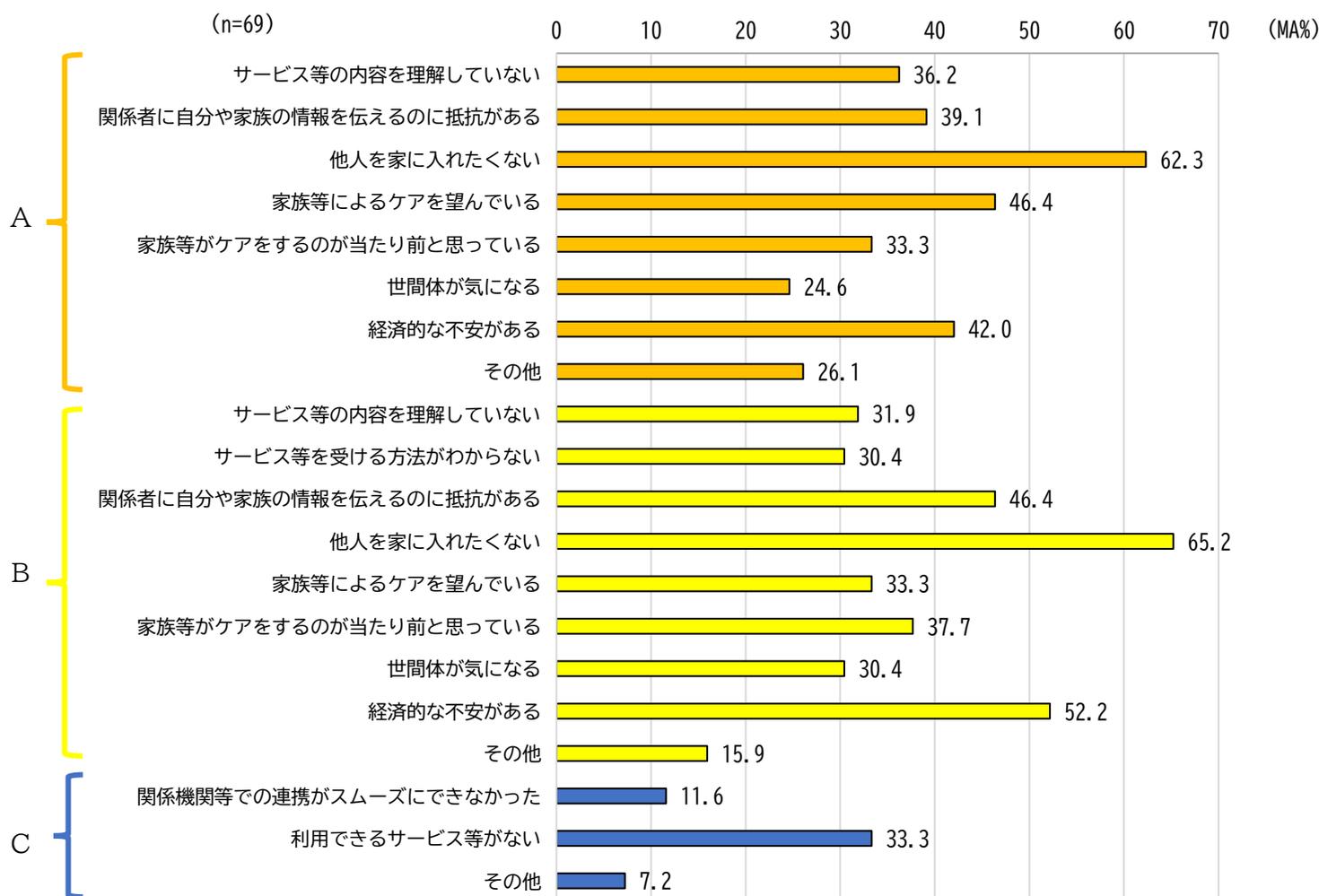
問 14 問 13 で「ある」と回答いただいた機関等に伺います。相談につながったにも関わらず、福祉サービス等の利用につながらなかった理由を教えてください。(いくつでも)

< A ケアが必要な人側の理由 >

< B ケアラー側の理由 >

< C その他の理由 >

【図3-11 福祉サービス等につながらなかった理由】



ケアが必要な人が福祉サービス等につながらなかった理由は、< A ケアが必要な人側の理由 >では、「他人を家に入れたくない」が62.3%で最も多く、次いで「家族等によるケアを望んでいる」が46.4%、「経済的な不安がある」が42.0%となっています。

< B ケアラー側の理由 >では、「他人を家に入れたくない」が65.2%で最も多く、次いで「経済的な不安がある」が52.2%、「関係者に自分や家族の情報を伝えるのに抵抗がある」が46.4%となっています。

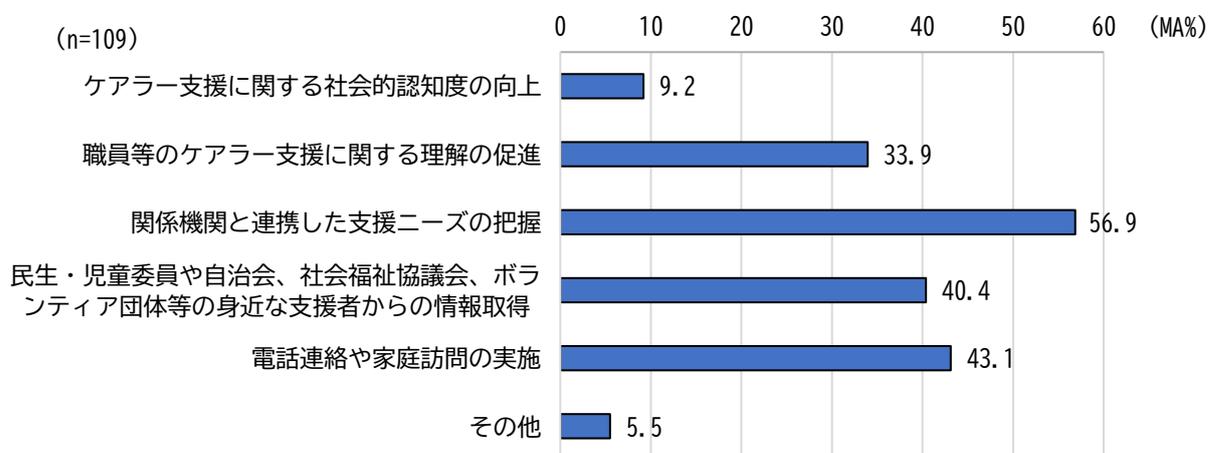
< C その他の理由 >では、「利用できるサービス等がない」が33.3%で、「関係機関等での連携がスムーズにできなかった」が11.6%となっています。

(いずれも図3-11)

(10) 福祉サービス等につなぐための取組

問 15 福祉サービス等の利用につながりにくいケアラー世帯に対し、取り組んでいることはありますか。(いくつでも)

【図3-12 福祉サービス等につなぐための取組】

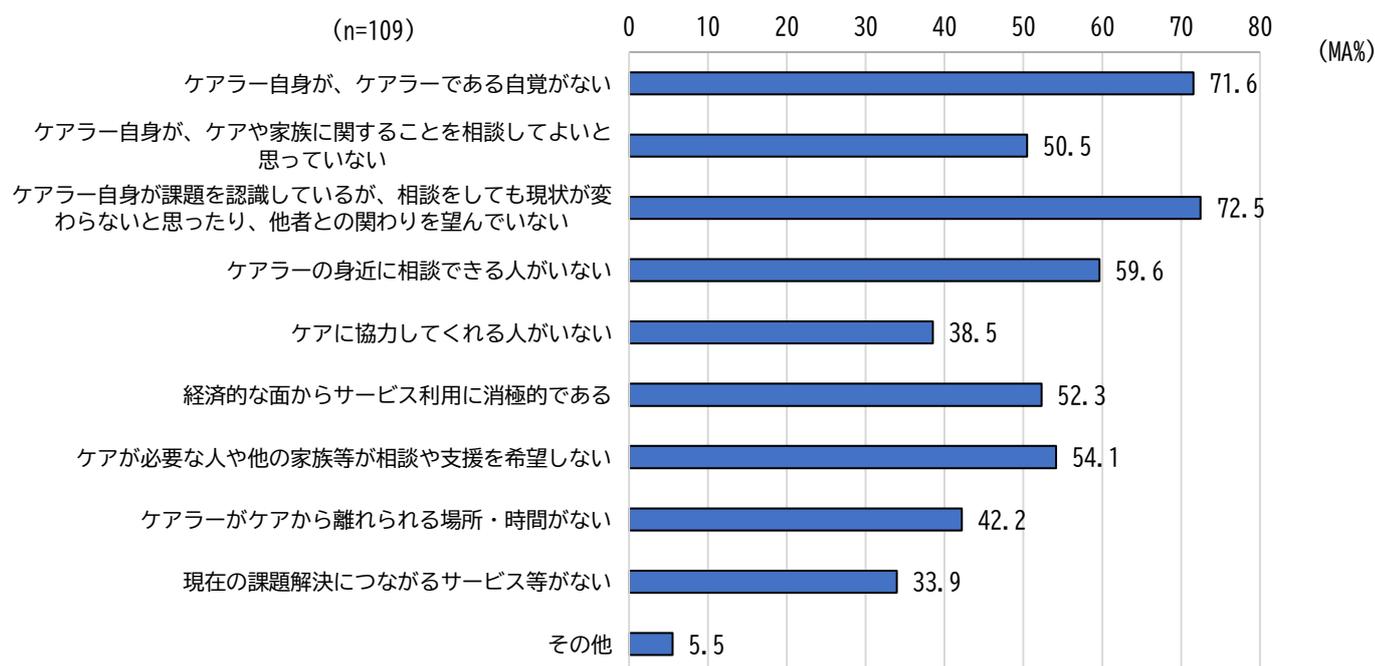


回答者が福祉サービス等の利用につながりにくいケアラー世帯に対し、取り組んでいることは、「関係機関と連携した支援ニーズの把握」が56.9%で最も多く、次いで「電話連絡や家庭訪問の実施」が43.1%、「民生・児童委員や自治会、社会福祉協議会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得」が40.4%となっています。(図3-12)

(11) ケアラーが抱える悩みや課題が解決しない(解決しにくい)要因

問 16 ケアラーが抱える悩みや課題が解決しない(解決しにくい)要因として考えられるものをお答えください。(いくつでも)

【図3-13 ケアラーが抱える悩みや課題が解決しない(解決しにくい)要因】



ケアラーが抱える悩みや課題が解決しない（解決しにくい）要因はとして考えられるものは、「ケアラー自身が課題を認識しているが、相談をしても現状が変わらないと思ったり、他者との関わりを望んでいない」が72.5%で最も多く、次いで「ケアラー自身が、ケアラーである自覚がない」が71.6%、「ケアラーの身近に相談できる人がいない」が59.6%となっています。（図3-13）

(12) ケアラーがいる世帯との関わりにおいて特に印象的だったこと、良かったこと、好事例等

問 17 ケアラーがいる世帯との関わりにおいて特に印象的だったことをお教えてください。（良かったことや好事例等を含む。）（自由記述）

主な御意見	意見数
<p>良かったことや好事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根気よくヤングケアラーのヘルパーの情報を提供し、利用につながったことで、状況が改善された ・ 学校との連携も大切で、特に養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとのカンファレンスの実施など課題の共有は効果的である ・ 認知症でケアラーがケアに困っている事例について、認知症初期集中支援チームや行政機関と一緒に動くことができた …など 	16
<p>課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーがヘルパー利用を希望したとしても、ケアを受ける人が拒否すると、サービス利用につながらない ・ 家族がケアを行うことが当たり前であるという認識が強く、アドバイスを受け入れてもらえない ・ ケアラー自身が発達や精神面において課題を抱えており、支援が入っても世帯として抱えている課題が解決しない場合がある ・ 親の介護と仕事の両立ができなくなり、体調を崩した結果、退職し、ひきこもりになってしまったケースがある …など 	31
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関等における連携において、ケアラー支援の調整役となる支援者がおらず、対応や責任の所在が不明瞭なまま支援が消極的になってしまう場合がある …など 	7
計	54

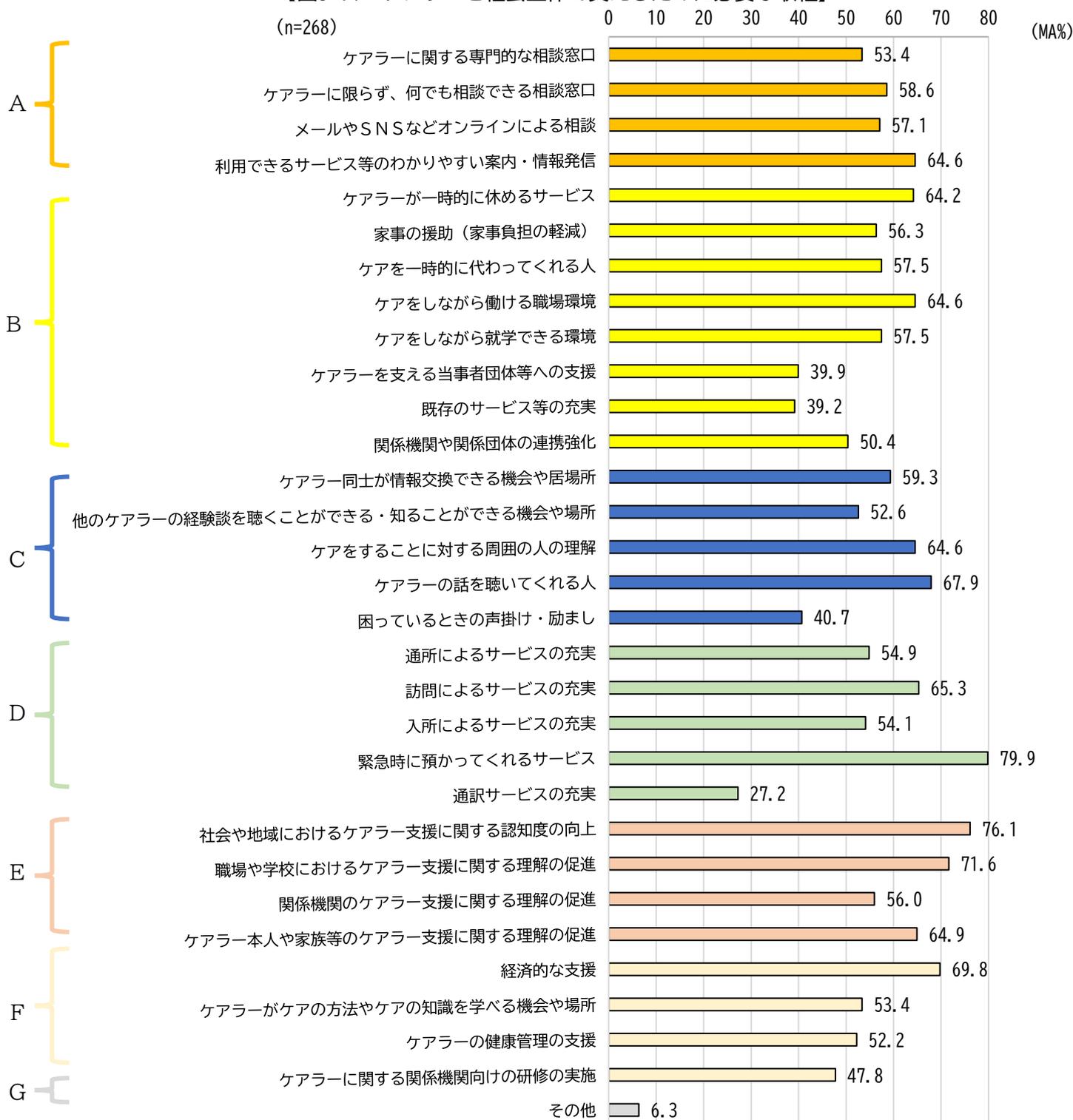
4 今後の取組

(1) ケアラーを社会全体で支えるために必要な取組

問 18 ケアラーを社会全体で支えるために、どのような取組が必要と考えますか。(いくつでも)

- < A ケアラーが相談できる人や場所、わかりやすい情報発信 >
 < B ケアラーの負担を軽減するサービス及び支援 > < C ケアラーを支える人や場所 >
 < D ケアが必要な人のための各種サービス及び支援 > < E 広報・啓発、理解促進 >
 < F その他支援 >

【図3-14 ケアラーを社会全体で支えるために必要な取組】



ケアラーを社会全体で支えるために必要な取組は、＜A ケアラーが相談できる人や場所、わかりやすい情報発信＞では、「利用できるサービス等のわかりやすい案内・情報発信」が64.6%で最も多く、次いで「ケアラーに限らず、何でも相談できる相談窓口」が58.6%、「メールやSNSなどオンラインによる相談」が57.1%となっています。

＜B ケアラーの負担を軽減するサービス及び支援＞では、「ケアをしながら働ける職場環境」が64.6%で最も多く、次いで「ケアを一時的に代わってくれる人」及び「ケアをしながら就学できる環境」が57.5%となっています。

＜C ケアラーを支える人や場所＞では、「ケアラーの話を聴いてくれる人」が67.9%で最も多く、次いで「ケアをすることに対する周囲の人の理解」が64.6%、「ケアラー同士が情報交換できる機会や居場所」が59.3%となっています。

＜D ケアが必要な人のための各種サービス及び支援＞では、「緊急時に預かってくれるサービス」が79.9%で最も多く、次いで「訪問によるサービスの充実」が65.3%、「通所によるサービスの充実」が54.9%となっています。

＜E 広報・啓発、理解促進＞では、「社会や地域におけるケアラー支援に関する認知度の向上」が76.1%で最も多く、次いで「職場や学校におけるケアラー支援に関する理解の促進」が71.6%、「ケアラー本人や家族等のケアラー支援に関する理解の促進」が64.9%となっています。

＜F その他支援＞では、「経済的な支援」が69.8%で最も多く、次いで「ケアラーがケアの方法やケアの知識を学べる機会や場所」が53.4%、「ケアラーの健康管理の支援」が52.2%となっています。

(いずれも図3-14)

(2) ケアラー支援のために取り組みたいこと

問 19 ケアラーを社会全体で支えるために、貴機関で取り組みたいことはありますか。(自由記述)

主な御意見の分類	意見数
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関同士のネットワークづくりや意識の共有・理解の促進に関すること ・ 多様な主体との連携強化に関すること …など 	18
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーの認知度向上に資する取組に関すること ・ 団体の活動についての情報発信に関すること …など 	18
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラー世帯との信頼関係の構築に関すること ・ ケアラーが気軽に相談できる環境づくりに関すること …など 	15
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーの早期発見に関すること ・ 潜在的なニーズの掘り起こしに関すること …など 	14
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーについての研修会の開催に関すること ・ 団体内の職員向けの学習会の実施に関すること …など 	10
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーが安心して気軽に立ち寄れる居場所づくりに関すること …など 	7
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーのレスパイトに関すること …など 	4
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアと仕事の両立支援に関すること …など 	4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の支援の継続に関すること …など 	4
<ul style="list-style-type: none"> ・ その他 	7
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	3
計	104

(3) ケアラー支援で行政機関に望むこと

問 20 ケアラーを社会全体で支えるために、京都市など行政機関に望むことはありますか。(自由記述)

主な御意見の分類	意見数
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーやケアラー支援についての周知啓発に関すること ・ ケアラー当事者が気づきを得られるような情報発信に関すること …など 	21
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーに関する相談窓口の設置に関すること ・ ケアラーについての相談先の周知に関すること …など 	18
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のスキルアップを図る研修に関すること ・ ケアラーについて学ぶ機会の確保に関すること …など 	12
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラー支援を行う団体等への金銭補助に関すること ・ ケアラー世帯への経済的支援に関すること …など 	8
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多機関協働によるケアラー支援体制の構築に関すること …など 	7
<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存制度や施策の充実に関すること …など 	7
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーの実態把握に関すること …など 	6
<ul style="list-style-type: none"> ・ その他 	13
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	1
計	93

(4) ケアラー支援の推進に関して必要なこと、お気づきのこと、取組のアイデア等

問 21 その他ケアラー支援の推進に関して必要なこと、お気づきのこと、取組のアイデアがあれば、記載してください。(自由記述)

主な御意見の分類	意見数
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会全体でケアラーへの理解を深めるための周知啓発に関する事 ・ SNSの活用等、効果的な情報発信の手法に関する事 …など 	17
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多機関・多職種による連携・協働に関する事 ・ 地域との連携強化に関する事 …など 	13
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーに関する相談窓口に関する事 …など 	7
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーへの直接的な支援に関する事 …など 	4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成に関する事 …など 	3
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーの実態把握に関する事 …など 	3
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアラーの交流や居場所づくりに関する事 …など 	2
<ul style="list-style-type: none"> ・ その他 	19
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	3
計	71